

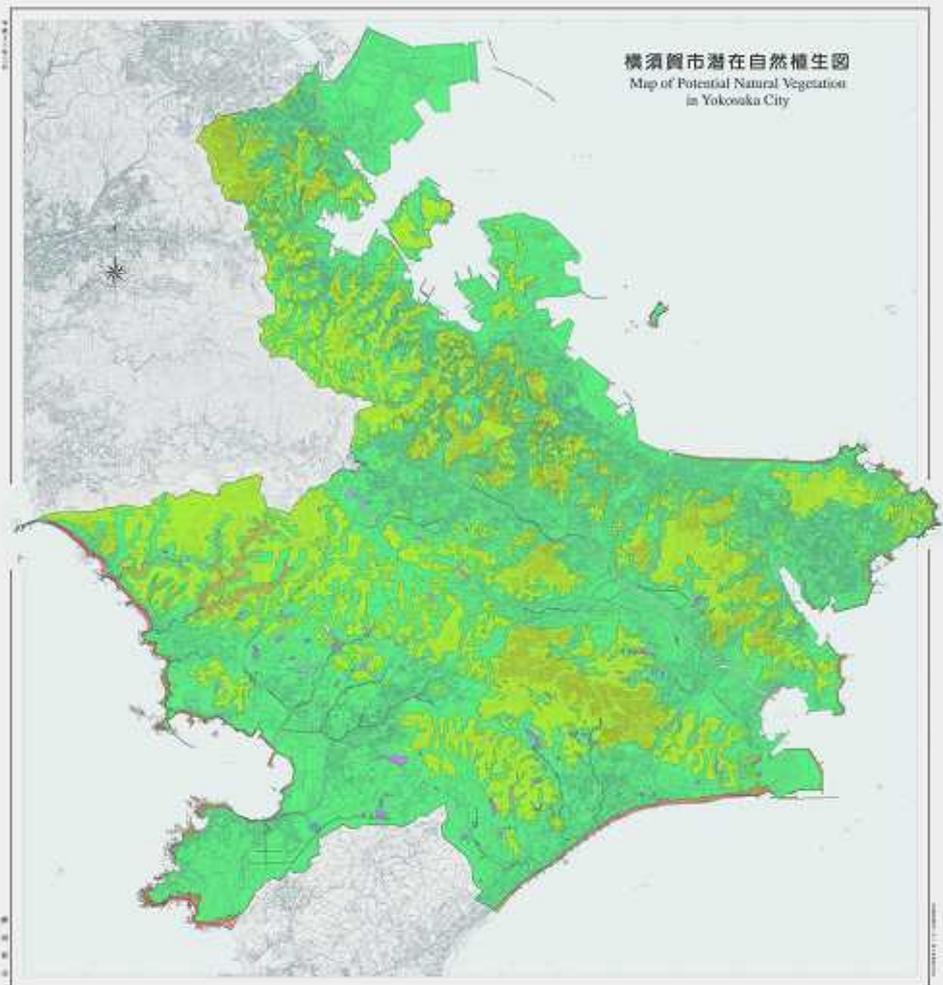


国際生態学センター 業績目録 第1号

(平成 5 年 10 月 ~ 16 年 10 月)

Performance Records of JISE No.1

1993.10-2004.10 • March 2005



はじめに

財団法人国際生態学センターは1993年（平成5年10月25日）文部省認可の研究財団として発足した。本財団の目的は、「この法人は、生態学を通じて内外の研究機関と協力しつつ、持続的発展が可能な社会の実現をめざし、地域から地球規模にいたる環境回復と環境創造に向けた実践的な調査・研究を推進する。また環境問題に係る研修や環境情報の収集提供等を行い、もって学術研究の振興と、地域環境および地球環境の保全・回復に寄与することを目的とする。」と財団規定の第2章（目的及び事業）第3条に明記されている。

本研究財団が発足した頃からいわゆるバブルの崩壊という厳しい経済的な状況に直面したが、その間においても限られた研究員とそれを支える事務局の皆さんの協力によって毎日夢中で現地調査、研究、その成果を通して、地域からさらにグローバルな緑環境の保全、再生に努力してきた。現在、県内はもとより、国内でも多くある財団という名称の法人はそれぞれの目的に応じて努力されているだろう。国際生態学センターは主として植生生態学を通じて内外の多くの研究機関と協力しつつ、現地調査を基本にしてまず国際的な評価にも耐えうる研究成果をあげることを目的として努力している。現在地元神奈川県から国内各地、さらに地球規模で我々がより経済的に恵まれた文明生活を享受しようとするほど、もっとも重要な人類の持続的な生存環境の荒廃をまねきかねない大規模な人間活動が行われている。我々は現在とまちがいのない未来の地域、県民、市民そして人類の持続的な生存とすべての人たちの豊かな感性、知性、遺伝子資源が保全できるよういのちの環境をまもり、積極的に再生、回復、創造することを目的として、10年間がんばってきた。客観的に見ても我が国際生態学センターは研究者の数、設備、施設も極めて限られている。しかし、幸いにもすべての研究員が実証的な現地調査、研究を積み重ね、またそれを支える事務局の皆さんのご援助によって小さくても国際的に評価される数多くの成果を10年間で築くことができた。

財団法人国際生態学センターの目的は生態学、特に植物生態学を通じての環境保全・積極的な回復・再生に関する調査、研究、実践である。同時に、生態学を通じた環境保全・回復に従事する人材の育成、さらに環境情報の収集および提供、セミナー、シンポジウム等の開催によって市民の環境への関心度を高め、共通の科学的な知見を共有することを目指している。そして機関紙および研究成果の刊行、その他の目的を達成するために必要な事業を行うことを財団規定の第2章の目的に続いて事業であげている。その具体的な成果は我々内部から見ても十分でなかったかもしれない。しかし厳しい諸条件、とくに経済事情の中でなんととしても明日に向かって初期の諸課題を達成するための努力を

日夜続けていかなければならなかった。幸いにも国土交通省をはじめ、先見性を持った地元横浜市はもとより、神奈川県、各行政の機関、また地域から国際的な発展、活躍をしている企業の皆さんのご支援によって、その成果は地味であっても国際的に評価される研究をあげてきている。

環境問題へのアプローチには様々な活動や手段がある。いずれも大事である。国際生態学センターでは限られたスタッフで、生きた緑の構築材料を使って自然環境、健全な人間社会の持続的な発展の基盤づくりの基本的、具体的にエコロジカルなシナリオづくりと、その実践を目指している。すなわちすべての市民の1人ひとりの豊かな知性、感性をはぐくみ、知的興奮を高め、生まれてくる子供達の遺伝子資源を守る緑環境の保全・再生を生態学的な現地調査にもとづく脚本によって、まちがいのないいのちの環境の保証、保全、再生を進めている。

またその成果を多くの県民、市民にご理解いただくための広報活動、研修、教育そしてそれに必要な情報の収集・提供、セミナー、シンポジウムなどの活動を限られたマンパワーと条件の中で精一杯行ってきたつもりである。

わずかな人員で厳しい条件の中で、これらの目的を達成することは容易ではない。どれほど努力したつもりでも10年を省みて必ずしも完全とはいえないことは慙愧にたえない。

しかし、10年間皆さんのご支援によって本研究財団は地域から国際的な分野にまで、緑環境の再生についての研究実績、先見性をもった各機関、企業の理解と決断、実行力によって具体的に実践し、地域はもとよりアジア、さらに地球規模で評価されて現状に至っていることに、ささやかな自負を持っている。同時にこれから、さらに規模、質ともに前向きに強い意欲と責任感をもっと発展・推進してゆきたい。

10年間の実績を足場にして本研究財団は、いよいよ本格的に新しい各分野のいのちを守る環境の保全、再生、その基礎として、科学的に多彩な現場における地味な調査、研究活動を着実に推進してゆく。それらの調査・研究成果を基本としてより確実ないのちを守る緑環境の保全、再生を各機関、企業、市民の皆様と進めてゆく。そのノウハウと実践を各行政機関や企業の発展、さらにすべての人達の健全な未来と、地域に根ざした文化を創造するエコロジカルな基盤を形成するために貢献することである。

これから先10年、20年と時間とともにより確実にまちがいない成果を地域から世界に向かって発信していくことが全研究員の目標であり、やりとげる決心である。

本報は業績目録1号として発足以来の実践成果をまとめている。アカデミックな広視野からみれば

まだ限られた分野であることはいなめない。しかし、実践的な防災・環境保全林、いのちの森づくり、具体的に確実に県、市内はもとより、日本、アジア、世界に広げている実績をあげてきていると自負している。

本業績目録にあげえなかった、より具体的、実質的な研究、調査、環境保全・再生の具体的な調査や資料や課題、成果も多く残されている。本報はさしあたりの一里塚としてのささやかな目録に過ぎない。

今まで10年間のウォーミングアップの時代から、これらの成果を基礎に、いよいよ本年度(16年度)からより本格的に、より着実に未来に向かって発展的な研究を地道に足元から続けていきたい。その成果を踏まえて今現在、地球規模で深刻な課題になり、人類生存の危機をももたらしかねない、いのちの環境、地域文化の基盤としての緑環境荒廃の危機を克服したい。まだ多くの人が本心では、それほど本気で考えていない何よりも人間も含めたすべての生き物の生存基盤としての緑、その濃縮した森を植生生態学を基本として出来るだけ多くの地域で、本物の緑環境の再生を目指して、さらに自信を持って着実に新しい気持ちで全研究員ががんばっている。また事務局の皆さんもそれぞれが多くの仕事をかかえながらも、積極的にまちがいのない研究成果をあげ、それを具体的な基礎としたよりよい、いのちの環境が再生・保全・創造されるための前進的プロジェクト研究・調査に協力をいただいている。

本報をささやかな一里塚として、各研究者、行政、企業、NGOそしてすべての市民の皆さんの前向きに積極的なご支援と厳しい科学的なご批判、ご教授を一同願っている。

現在の環境問題は、我々人間が主役である。悲観主義に陥って自滅するのは不幸である。マイナス志向はやめて積極的にまちがいのない、いのちの環境、総合的な文化、経済、産業、政官財あらゆる面で、生まれてくる子供たちから熟年者にまで喜んで自信を持って明日に向かって発展しなければならない。我々は、永遠にとどまることのない、人類が主役のいのちのドラマの進行の助成役として専門の植物生態学の研究を深めたい。その成果をすべての皆さんと共有し、明るく素晴らしい未来に向かってこれから10年、20年、未来永劫に向かって自信を持って共に進んでいきたい。重ねて暖かいご援助と積極的なご教示、厳しいご批判をお願いしたい。

財団法人国際生態学センター
研究所長 宮脇 昭

目次

はじめに.....	i
設置目的.....	1
沿革.....	1
機能.....	1
事業概要.....	1
(1) 研究開発事業.....	1
(2) 人材育成事業.....	1
(3) 交流事業.....	2
(4) 普及啓発事業.....	2
活動報告.....	2
(1) 研究開発事業.....	2
1) プロジェクト研究.....	2
2) 受託研究.....	8
(2) 人材育成事業.....	10
1) 生態学研修.....	10
2) 環境学習.....	11
(3) 交流事業.....	12
1) フォーラム、シンポジウム.....	12
2) 研究会.....	16
(4) 普及啓発事業.....	33
1) マレーシアへの熱帯林再生植樹研修.....	33
2) 植生データサービス.....	33
編纂・刊行物.....	34
(1) 生態環境研究.....	34
(2) ニュースレター.....	39
(3) 研究報告書.....	39
研究スタッフ・研究業績目録.....	40

設立目的

生態学を通じて内外の研究機関と協力しつつ、持続的発展が可能な社会の実現をめざし、地域から地球規模にいたる環境回復と環境創造に向けた実践的な調査研究と環境問題に係る研修や環境情報の収集提供等を行い、もって学術研究の振興と、地域環境及び地球環境の保全・回復に寄与することを目的とする。

沿革

平成 5 年 10 月 25 日	財団法人国際生態学センター設立(文部省許可) (横浜市中区山下町 54 山下町分庁舎)
平成 6 年 5 月 24 日	湘南国際村センター内に事務所移転 (三浦郡葉山町上山日 1560-39)
平成 6 年 8 月 2 日	特定公益増進法人の認定を受ける(文部省)
平成 10 年 4 月 13 日	横浜合同庁舎 6 階に事務所移転(登記 10.8.5) (横浜市中区山下町 32)(登記簿上 10.7.23)
平成 13 年 6 月 1 日	川村恒明理事長就任(長倉三郎前理事長は顧問)

事業概要

(1) 研究開発事業：「生態学を通じた環境保全・回復に関する調査及び試験、研究」

拡大する人間活動で自然や都市の環境が影響を受けている中、人間と自然の共生の方法を確立することが必要になっている。6つの研究プロジェクトを柱に、地域的・地球的ニーズに応じた生態系の保全・評価と修復・再生・創造の技術を研究開発し、各分野に積極的に提供する。

- 1) 熱帯林再生に関する調査・実験研究
- 2) アジア・太平洋地域を中心とする植生体系の調査・研究
- 3) 中国東部における植生復元に関する調査・研究
- 4) 里山の生態系の構造および方法の研究
- 5) 地域生態系の構造と動態およびその評価に関する研究
- 6) 環境保全機能に関する調査・研究

(2) 人材育成事業：「生態学を通じた環境保全・回復に資する人材育成」

地球環境の悪化が進み、将来に亘って人類への影響が懸念されるなかで、熱帯林の保護、再生などを通じて地球環境問題に貢献して行くと共に、国内外の地域生態系の修復・復元による生活や企業活動と環境との共生を目指した環境プロジェクトの計画・実践活動を遂行し得る人材の養成のための研修事業を実施する。また、環境学習の一環として、広く市民や次世代を担う小・中学生等を対象としたエコロジー教室などを実施する。

(3) 交流事業：「環境情報の収集及び提供、並びにセミナー、シンポジウム等の開催」

環境と調和した持続可能な社会の発展に資するため、環境に関する研究開発の基盤となる情報の集積、提供を行う。また、環境問題に生態学の立場から貢献して行くための方策や環境保全に関する新たな研究開発の動向等を討議するため、生態学分野の第一線で活躍する研究者や実践活動者によるシンポジウムの開催や内外の関係機関等との人材・情報の交流などを行う。

(4) 普及啓発事業：「財団機関紙等の広報紙及び紀要の発行」

財団の活動状況や環境問題への生態学からのアプローチの利点などを普及啓発するための財団機関紙や研究成果報告書を発行する。また、マレーシア・サラワク州ピンツルにおいて実施している熱帯林再生試験研究の現場において財団事業の理解を広めるため、熱帯林再生の実践活動を行う現地調査団を派遣する。

活動報告

(1) 研究開発事業

1) プロジェクト研究

「アジア・太平洋地域を中心とする植生体系の調査研究」

研究目的

日本の植生に関する群落体系は日本植生誌全 10 巻(1980～1989)をもって、基本的な骨格は明らかにされた。しかし国際的には、特に豊かな生物相を有し、環境復元のニーズの高いアジア・太平洋地域の群落体系はほとんど未研究の領域であり、その整備は環境保全上の急務といえる。本調査研究はアジア・太平洋地域の環境復元に欠くことの出来ない、植生の群落体系および潜在自然植生などを日本との比較の基に把握することを目的とし、ひいては環境保全、生物多様性の維持に関する生態学的手法の策定を目標においている。

本プロジェクトは、当初 6 年間(1995～2000 年)の研究対象として、日本と最も近い植物相を有すものの、植生学的にはほとんど未調査である中国東部(華東地区)を選定した。実際には華東地区の照葉樹林域の自然林から畑雑草群落までの全植生および景観単位を対象に日中間の比較研究として日中の研究者による調査・研究が実施されている。

・研究テーマ：「中国華東地域と日本との植生・景観の比較研究」(1995-2003)

1. アジア・太平洋地域における、現地調査による植生調査資料(群落構成、その地域的配分等)の集積、解析
2. 各植生の生態的特性、分布などの把握
3. 潜在自然植生の把握
4. 植生の相互関連や土地利用様式の把握のための景観単位の把握

これまでの調査・研究・発表実施状況

1994 年度

1. プロジェクト計画立案のための浙江省天童寺・天目山の予備植生調査(8月)

1995 年度

1. 天童寺およびその周辺の植生・景観調査（8月、10～11月）

1996 年度

1. 南京市・天目山の常緑・夏緑広葉樹林域の植生・景観調査（5月、8月）

1997 年度

1. 天目山および安徽省黄山（6～7月、9月）の植生・景観調査
2. 日本の九州地方の共同調査（11月）
3. 学会発表（日本生態学会関東地区会：11月；日本生態学会第45回大会：3月）

1998 年度

1. 黄山周辺、江蘇省太湖、南京市周辺、揚子江辺などの植生・景観調査（5月、9月）
2. 日本の東海・関東地方を対象とした共同調査（1月）
3. 学会発表（日本生態学会第46回大会；3月）

1999 年度

1. 上海市・南京市の都市域および浙江省の海岸部の植生・景観調査（5月および11月）
2. 日本における四国、中国地方の共同調査（6月）
3. 学会等における発表および報告書の作成

2000-2003 年度

1. 南京市周辺の群落環調査

「熱帯林再生に関する調査・実験研究」

研究目的

世界的な環境問題や生物多様性の観点から熱帯雨林の重要性が指摘され、保全、修復が急務の課題とされているのは周知のとおりである。

世界の熱帯雨林は主にアフリカ、中南米、東南アジアに分布する。その中でも日本がこれまでに最も恩恵に浴し、関係が深かったのは東南アジアの熱帯雨林である。森林から伐採される木材は過去数十年間にわたり、他国と比較して大量に日本に輸入されてきた。その他のバナナ、パイナップルなどの果物やゴム、ヤシ油、胡椒などの農作物も森林伐採跡地に換金作物として栽培され、大規模な開発が進められている。その速度は年を追うごとに増し、日本のみならず経済、環境の面で世界中と結びつくようになっている。一方、動植物の宝庫である熱帯雨林の実体は近年の精力的な研究にも拘わらず、不明な事柄が山積している。樹種特性ひとつをとっても、数多くの熱帯雨林に出現する樹木のうちのほんの一握りについて、実証データがあるに過ぎない。

本プロジェクトでは、失われつつある東南アジア熱帯雨林の回復、創造を目指し、本来あるべき自然性の高い森林を再生させることを目的としている。植栽地近くから種子を採取、発芽させ、日照、土壌などの植栽条件の相違による植栽後の生育挙動を追跡調査、解析することで樹種の生態的特性が解明され、出現すべき立地が予想される。

また、このような理解のためには土地本来の自然林（潜在自然樹種）と現存植生の時系列、空間系列の配置を把握することが不可欠であり、様々な路傍雑草群落、二次林、自然林などの植生調査を行っている。

研究内容

本プロジェクトの内容は、1. 樹木の生長挙動の把握、2. 植生調査資料の収集・解析、に大別される。本プロジェクトは三菱商事株式会社の資金協力を得て、マレーシア農科大学 (UPM; Universiti Putra Malaysia) とマレーシア・サラワク大学 (UNIMAS; Universiti Malaysia Sarawak) との共同プロジェクトとして、1991年横浜国立大学環境科学研究センター植生学研究室 (宮脇研) で始まり、1994年に財団法人国際生態学センターに引き継がれ、UPM ピンツル分校内の800ha敷地で進められている。植栽樹種はフタバガキ科の樹木が多く植えられているほか、植栽地周辺の自然性の高い低地熱帯雨林に出現する種が植栽され、1999年10月現在その総計は92種20科30万本にのぼる。植栽条件は植栽密度、日照や土壌水分、土壌養分など植栽立地の異なるプロットを設定し、植栽当初から20箇所を越える永久方形区を設置して樹種の生長を追跡調査している。現在までに植栽条件の違いによる樹種特性、樹種の物性と生長傾向やいわゆる環境保全林の日本で形成されたものとの比較などが解析され、学会、論文等で発表、出版されている。

一方、植生調査は植物社会学的方法を用い、各種の草本群落、二次林、自然林に近い状態の森林などの群落について行っている。自然性の高い森林を調査することが森林再生のために不可欠であるが、遷移系列や樹種特性、立地の判断材料として、代償植生の各群落を調査することも重要である。

これまでの調査結果から実際に、ある特有な局地環境に出現する幾つかの樹種が判別された。それらのうち、本プロジェクトで植栽されている数種の生長特性と群落内での出現挙動が良く一致するものがみつかり、植生調査が種のもつ生態的特性を認識するのに有効であることが、改めて示されている。

公表論文

- Alias, M. A, M. Z., Hamzah, K., Fujiwara, & S., Meguro. 1998. Rehabilitation of tropical rainforests based on potential vegetation species for degraded area in Sarawak, Malaysia. *Tropics*, 7 (3/4): 223-239.
- Miyawaki, A., 1993 Restoration of native forests from Japan to Malaysia. In: *Restoration of Tropical Forest ecosystems* (eds. H. Lieth & M. Lohmann), pp. 5-24.
- 宮脇 昭. 1997. 緑の地球環境再生を目指して. *学術月報*, 430-441.
- Meguro, S. 1998. Growth behavior of some species through experimental reforestation on Borneo Island. *Eco-habitat*, 5: 53-58.
- Meguro, S. & A., Miyawaki. 1997. A study of initial growth behavior of planted Dipterocarpaceae trees for restoration of tropical rain forest in Borneo/Malaysia. *Tropical Ecology*, 38:237-245.
- Meguro, S. & A., Miyawaki. Species characters and the growth behavior at reforestation of tropical rain forest in SouthContribuciones al conocimiento y evaluación de la vegetación. (in press).
- Miyawaki, A., 1998 Restoration of urban green environments based on the theory of vegetation ecology, *Ecological Engineering*, 11: 157-165.

Miyawaki, A., 1999. Creative Ecology: Restoration of Native Forests by Native Trees, Plant Biotechnology, 16(1): 15-25.

Miyawaki A., & S. Meguro (2004) Vegetation of lowland tropical forest and ecological characteristics of the component trees at estuary region in Amazon. Proceedings of 47th International Association of Vegetation Science. Honolulu, USA.

Miyawaki, A. & S. Meguro. Restoration of tropical rain forests in Sarawak, Malaysia. IAVS proceeding (in press).

Murakami, Y. & S., Meguro. 1996. Woody vegetation in Bintulu and Similajau National Park, Malaysia Eco-habitat, 3: 1-17.

「中国東部における植生復元に関する調査・研究」

研究目的

中国では古くからの土地利用に加えて、急速な経済発展、工業化により緑が失われ、砂漠化と呼ばれる自然環境の攪乱が顕在化し、確実に早期に安定した樹林形成が可能な緑化技術が強く求められている。本プロジェクトでは中国東部の華東地方において、植生生態学的緑化手法による早期の安定した樹林形成とその実施基盤の確立を目指す。

研究内容

1. 植栽適正樹種選定を目的とした潜在自然植生の解明
2. 植栽された樹種の生長調査に基く樹種特性の解明・把握
3. 上記の研究成果に基く植栽手法の改良と開発の検討および植栽地管理

研究成果

1. 鉦山のぼた山上への植生復元植栽の実施
2. 安徽省馬鞍山市南山鉄鉦所の植生復元植栽地におけるモニタリング調査
3. 新たな植生復元対象地の状況調査
4. 現地技術指導によるポット苗の育成栽培の開始

「里山の生態系の構造および方法の研究」

研究目的

里山は、「人間生活に不可欠な燃料、あるいは農業生産に必要な落葉や腐植のような有機肥料を得るために、自然林の破壊によって人為的に形成され、維持管理されてきた人里周辺の林地」と定義される（重松，1998）。一般的に、雑木林とよばれている薪炭林・農用林が里山である。具体的には低地のコナラ林・クヌギ林・アベマキ林・アカマツ林、山地のミズナラ林などの二次林とよばれる林を指している。これらの里山は、燃料用の薪や柴の採取、炭焼き、肥料とするための落ち葉掻きや刈敷用の若枝・低木の採取、山菜・キノコ採りなど日常生活の必需品を得るために、定期的な下草刈り・伐採などの人為的管理によって今日まで維持されてきた。

このような半自然的な生態系である里山は、近年環境問題に対する意識の高揚にともない身近な自然として注目されてきている。また、里山は高い生物多様性を維持してきたと同時に、自然林に準ずる水源涵養、洪水調節、水質浄化などの環境調節・保全機能を備えている。また、農村の生活

基盤を支えてきた文化的存在でもある。近年ではこれら各種の機能面・生物的特性が注目され、身近にある優れた自然として高く再評価されてきている。

しかし一方、エネルギー革命による薪炭林の需要の低下と農業後継者の急減により、管理が粗放あるいは放棄される里山が多くなり、里山の林相は近年急激に変化してきている。また、宅地開発・造成など急速に進行する都市化により、里山そのものが各地で失われてきており、里山の存続は危機的状況を迎えつつあるのが現状である。

このような現状を踏まえ、里山の生物相や植生、景観に関する基礎的な研究は、種多様性の保護や都市近郊の環境保全・復元対策のための重要な緊急課題である。

研究内容

雑木林などの広葉樹を中心とする二次林環境である里山についての生態学的評価を目標とし、生物多様性や循環型管理など現在注目されている里山の特性を含めた二次林としての里山の分布、構造、種類などを植生生態学的手法を用いて明らかにする。里山地域として、耕作地、植林、集落など里山周辺も含めた植生景観域を研究対象とする。

1. 里山の変質化についての国内の広範調査による実態の把握
2. 里山林の植生調査に基いた類型化およびそれらの群落型と立地・分布域・管理特性などとの対応関係の把握
3. 二次林である里山林と自然林との比較によるそれらの相違性と類似性の解明および里山の起源についての考察
4. 日本の里山と極めて類似した中国東部の夏緑広葉樹林との比較と、それらナラ林型里山の成立過程および生態的特性の解明

研究成果

1. 九州，中国地方および北関東における里山林の常緑広葉樹林への変質状況の実態調査
2. 関東地方の里山林の分布特性について（印刷公表）
3. 中心的な里山であるコナラ林の植生類型化（印刷公表）
4. 山地帯の里山であるミズナラ林の植生類型化（印刷公表）
5. アカマツ林の植生類型化（公表準備中）
6. 中国華東地区におけるナラ林およびマツ林の類型化とそれらの日本との比較（印刷公表）
7. 中国華東地区における里山林再生地のモニタリング調査
8. 里山に関する環境学習の実施普及（横浜市立緑園西小学校）
9. 里山地域の水源管理に関する植生および環境調査（群馬県大峰沼）
10. 利根川源流域におけるミズナラ林，ブナ林などの自然林調査（印刷公表）
11. 箱根地区における広葉樹林再生植栽地の植生動態モニタリング調査

「地域生態系の構造と動態およびその評価に関する研究」

研究目的

様々な利害意識を持つ関係者 Stakeholder の縦割り・部門的システムが社会・経済・政治の基盤となっている我が国では、各領域の個別的施策を見直し、地球環境の「持続可能な管理」という長期的な目的に合致する新たなシステムを構築することが大きな課題となっている。これまで無制限・無秩序に行われていた行政、事業者、住民個々の行動を環境配慮の基本的共通理念に照らし合

わせる必要性が生じてきたことに伴い、その羅針盤としての環境計画とそれを支える地域マネジメントシステム Regional management system; RMS の重要性が今日高まっている。RMS は、環境配慮の共通理念の実現化を担う持続的仕組みとして、人類と生態系・自然環境との良好な関係を積極的に模索・構築するための環境計画プロセスを必要とする。そのため、今日の環境計画では、環境と人間・生物の関係科学である「生態学」の視点に基づく環境計画論の果たす役割が極めて重要である。そして、様々な立場にある関係主体が共通して環境資源を認識するための共有情報を整備することが第一の前提条件となる。土地本来の自然の生産力、生態的な均衡、災害の緩衝といった環境制御能力に対する価値評価を軽視してきた我が国の国土政策は、結果として、土地機能の単純化、無秩序な開発と土地資源の占有化・私有化をもたらし、土地空間の利用的価値と環境保全とのコンフリクトを激化させている。また我が国の基本方針「生物多様性国家戦略」では、国内諸施策における環境配慮の必要性が強調され、関係主体の連携・協働を通じた総合的な環境戦略を展開してゆくことが求められている。将来的には、地域に固有の自然的、経済的、社会的および文化的諸条件を勘案し、部門的枠組みを越えた政策手段と共通認識の統合化理念に準じた、我が国固有の環境戦略を推進してゆくことが肝要である。

その実現のためには、人と生物と土地の有機的なつながり - 生態系の視点から環境を総括的に捉え、一定の広がりをもった「地域」の視点から総合的かつ予防的に環境を把握・管理してゆくためのツール開発が不可欠である。そこで、本研究では、近年次第に高まりつつある地域環境計画や自然再生への社会的ニーズをふまえ、その科学的根拠となり得る生態系評価手法の開発を目的とする。

研究内容

1. 地域スケールや土地属性に応じた生態系の空間的単位性の解明
2. 地域生態系を構成する様々な生物・生態資源（植物群落、動植物種など）の記載とその情報の体系化
3. 生物・生態資源の構造・動態の解明 - とくに植物社会学的植生モニタリング手法をベースとした地域生態系の時系列的・空間的な解析と評価
4. 潜在自然植生概念を用いた空間類型とそれに基づく生態系ポテンシャルの可視化
5. 生物・生態資源の「固有さ」を図るための評価尺度の開発
6. 希少性・脆弱性・エコトーン指標性・郷土文化指標性など、生物・生態資源のもつ多様な特性（固有さ）とその空間的配分構造の解明
7. 将来的な地域環境計画の意思決定を支援するための総合的な生態系評価手法の開発

研究成果

1. 沿岸域（トレーニングエリア：石川県加賀市）における定性的な植生構造解析と保全・再生優先度評価の実施（第50回日本生態学会大会発表、論文公表）
2. 里地流域圏（トレーニングエリア：福井県鯖江市）における定性的な植生構造・動態解析と保全・再生優先度評価の実施（第51回日本生態学会大会発表）
3. 都市および里地河川（トレーニングエリア：福井県福井市・鯖江市周辺）における定性的な植生構造・動態解析（植生学会第8回大会、同第9回大会発表）
4. 都市市街地（トレーニングエリア：福井県福井市）における潜在自然植生の推定（植生学会第7回大会発表、論文公表）

「環境保全機能に関する調査・研究」

研究目的

生態学的手法による地域環境の保全・機能に関する調査・研究は世界的に見てもまだ、その端緒についたばかりである。自然環境が緩衝機能や環境安定機能を有することは定性的に知られている。したがって植生回復を行うことは環境保全においても役立つことが期待される。そこで近年たとえば生態工学などの分野が学術的にも認められるようになり、環境に配慮した工法などが提案されるようになってきている。しかし環境の持つ機能的側面に関する具体的データはいまだに極めて少ない。そこでここでは潜在自然植生の概念を用いた生態環境の修復・再生、緑の復元およびその機能などに関する研究を行う。

研究内容

研究の項目は以下の通りである。

1. 緑回復のために植栽された樹木の生長動態調査と解析
2. 生育する樹木の力学的特性と種生態の関係解明
3. 緑回復過程における植生調査および物理環境の測定

研究成果

1. 島根県における斐伊川放水路事業に伴って生じる開削部の切土・盛土法面の自然植生回復に関する樹木生長調査、植栽地の植生学的変化及び緑化計画を提案した。
2. 鳥取県天神川流域におけるバイパス道路建設や砂防ダムに伴う新規の法面における植生回復に際して、造成地形に応じた復元すべき植生とそれを実現するための植栽樹種、植栽配置などを提案した。
3. 筑波大学に生育する樹木の力学的特性実験とその樹木形態解析ならびに熱海および川崎市東扇島環境保全林における樹木生長特性把握による樹種生態の解明（台湾生態工学シンポ発表、科研費報告、印刷中）
4. 横浜市瀬戸神社における急傾斜地崩壊対策工事による、瀬戸神社社叢林に生じる影響を植生調査、風向・風速、土壌水分等の物理環境測定、植栽された樹木のモニタリングを行って評価した。

2) 受託研究（主な事例）

国関係

- ・大規模崩壊地植生調査（国土交通省）
大規模崩壊地における緑化にかかわる植生調査および樹種選定
- ・放水路法面緑化検討（国土交通省）
島根県における放水路法面の緑化に関する現地調査、緑化計画立案
- ・ダム周辺道路法面緑化検討（国土交通省）
島根県におけるダム周辺付替道路法面の緑化に関する現地調査、緑化計画立案

地方自治体関係

- ・横須賀市植生調査（横須賀市）

- 市全域の現存植生、潜在自然植生、植生機能に関する調査・研究
- ・加賀市植生調査（加賀市）
 - 市全域の現存植生、潜在自然植生調査および環境保全林形成の検討
- ・福井県浄土寺川ダム周辺植生回復調査（福井県）
 - ダム周辺域の自然回復に関わる植生調査、緑化計画立案
- ・都市河川環境保全モデル事業（福井県）
 - 都市河川の自然回復に関わる植物相、植生調査および計画立案
- ・里地河川環境保全モデル事業（福井県）
 - 里地河川とその流域圏管理に関わる植生調査および自然再生計画との立案
- ・砂防計画調査（神奈川県）
 - 丹沢山地の砂防ダム周辺の緑化に関わる植生調査、植栽計画立案
- ・急傾斜地崩壊対策（神奈川県）
 - 急傾斜地崩壊防止工事に伴う社叢林の環境影響調査
- ・相模川流域下水道左岸処理場周辺緑化（神奈川県）
 - 処理場周辺の緑化にかかわる調査および計画の策定
- ・植生回復調査（福井県宮崎村）
 - 新規村道法面の緑化にかかわる植生調査および計画の検討
- ・通常砂防工事（福井県）
 - 緑の砂防ゾーンにおける緑化にかかわる植生調査および計画の検討
- ・道路改良工事（福井県）
 - 国道 158 号法面の緑化にかかわる植物・植生概況調査および計画の立案
- ・都市公園工事（福井県）
 - 公園地における潜在自然植生に基づいた植栽にかかわる調査および計画の立案
- ・道路改良工事（福井県）
 - 国道 162 号線法面の緑化にかかわる植物・植生概況調査および計画の立案
- ・森林資源モニタリング調査（神奈川県）
 - 森林資源モニタリング調査（林野庁）に関する植生調査

民間

- ・道路及びその周辺環境における生態学的研究（いすゞ自動車）
 - 道路およびその周辺環境における生態学的研究
- ・荒川中流における植生調査（日本生態系協会）
 - ビオトープ管理に関する植生モニタリング調査
- ・電力設備の環境保全林形成状況に関する実態調査（尾瀬林業）
 - 発電所における環境保全林の実態調査
- ・ポーラ美術館緑環境計画調査（ポーラ興産）
 - ヒノキ植林地の林相転換に関する植生調査、基本設計および植栽計画の立案

(2) 人材育成事業

1) 生態学研修

生態学研修では、植生調査に関する基礎的な知識・技術の習得を目的として、植物社会学的方法を中心とした座学、野外実習および調査資料の整理作業を一組とする講座を開設している。受講者のレベルに応じて、2～3段階に分けて実施している。初級（基礎）コースは野外調査の方法と群落区分、中級以上では植生図の作製とそれによる環境の把握、解析方法の習得を目標としている。

年度・講座名	実施月日	場 所	参加人数
平成6年度			
初級コース	1月25～27日	横浜市内	23
上級（応用）コース	10月3～14日	京都～東京	6
平成7年度			
初級コース	1月24～25日	県政総合センター	33
上級（応用）コース	10月3～14日	京都～東京	6
平成8年度			
基礎コース	9月24～27日	葉山町：湘南国際村センター	28
上級（応用）コース	8月7～26日	バイカル湖周辺	11
公開連続講座	9月28日～11月16日 （毎週土曜日）	横浜市：中小企業会館	360
平成9年度			
基礎コース	7月14～18日	横浜市：県政総合センター	33
基礎コース	10月20～24日	葉山町：湘南国際村センター	31
上級（応用）コース	8月10～31日	タイ	13
平成10年度			
基礎コース	7月1～4日	藤野町：藤野芸術の家周辺	31
基礎コース（追加分）	10月28～31日	藤野町：藤野芸術の家周辺	32
上級（応用）コース	7月20日～8月10日	鹿児島県屋久島	18
平成11年度			
基礎コース	7月14～17日	藤野町：藤野芸術の家周辺	30
中級コース	8月3～7日	横浜市：舞岡公園周辺	14
平成12年度			
基礎コース	5月31日～6月3日	藤野町：藤野芸術の家周辺	30
平成13年度			
基礎コース	7月13～16日	横浜市：上郷森の家周辺	31
中級コース	10月26～30日	横浜市：上郷森の家周辺	10
平成14年度			
基礎コース	7月21～24日	横浜市：上郷森の家周辺	18

平成 15 年度			
基礎コース	7月 22～25 日	横浜市：上郷森の家周辺	28
中級コース	11月 25～29 日	横浜市：上郷森の家周辺	6
平成 16 年度			
基礎コース	7月 26～28 日	横浜市：上郷森の家周辺	16
中級コース	11月 22～24 日	横浜市：上郷森の家周辺	15
延べ参加人数			823 人

2) 環境学習

環境学習は、植物や磯の生物の観察を年間 4～6 回、三浦半島周辺地域を利用して実施している。

回数	実施日時	実施場所	参加者数
1	平成 6 年 6 月 11 日	湘南国際村センター及び子安の里	145
2	平成 6 年 6 月 12 日	湘南国際村センター及び子安の里	75
3	平成 6 年 8 月 1 日	湘南国際村センター及び森戸川源流	25
4	平成 6 年 8 月 2 日	湘南国際村センター及び森戸川源流	16
5	平成 6 年 8 月 4 日	湘南国際村センター及び森戸川源流	24
6	平成 6 年 9 月 11 日	葉山しおさい博物館及び一色海岸	23
7	平成 6 年 10 月 8 日	葉山町福祉文化会館及び仙元山	31
8	平成 6 年 10 月 10 日	湘南国際村センター及び仙元山	18
9	平成 6 年 12 月 18 日	湘南国際村センター及び小網代の森	52
10	平成 7 年 1 月 26 日	県政総合センター	90
11	平成 7 年 5 月 27 日	県立観音崎公園周辺	34
12	平成 7 年 6 月 18 日	小網代周辺	40
13	平成 7 年 7 月 26 日	県立城ヶ島公園周辺	63
14	平成 7 年 8 月 9 日	湘南国際村周辺	121
15	平成 7 年 12 月 3 日	湘南国際村周辺	31
16	平成 8 年 5 月 25 日	小網代の森周辺	49
17	平成 8 年 6 月 30 日	葉山しおさい博物館及び一色海岸	46
18	平成 8 年 7 月 14 日	県立自然保護センター	17
19	平成 8 年 8 月 8 日	湘南国際村周辺	134
20	平成 8 年 9 月 15 日	仙石原高原	15
21	平成 8 年 10 月 20 日	宮ヶ瀬ビジターセンター	17
22	平成 9 年 5 月 24 日	小網代の森周辺	25
23	平成 9 年 6 月 22 日	観音崎公園周辺	20
24	平成 9 年 7 月 12 日	葉山しおさい博物館	20
25	平成 9 年 10 月 25 日	葉山町福祉文化会館及び仙元山	16
26	平成 10 年 5 月 4 日	湘南国際村周辺	55

27	平成 10 年 6 月 13 日	小網代の森周辺	32
28	平成 10 年 9 月 26 日	葉山しおさい博物館及び一色海岸	12
29	平成 10 年 11 月 28 日	座間谷戸山公園	11
30	平成 11 年 5 月 30 日	葉山しおさい博物館及び一色海岸	43
31	平成 11 年 9 月 11 日	小網代の森周辺	30
32	平成 11 年 10 月 3 日	こどもの国	22
33	平成 11 年 11 月 27 日	座間谷戸山公園	8
34	平成 12 年 6 月 4 日	小網代の森周辺	23
35	平成 12 年 11 月 11 日	こどもの国	25
36	平成 12 年 11 月 25 日	葉山しおさい博物館及び一色海岸	11
37	平成 13 年 6 月 9 日	小網代の森周辺	22
38	平成 13 年 6 月 23 日	葉山しおさい博物館及び一色海岸	23
39	平成 13 年 10 月 13 日	猿島	24
40	平成 13 年 11 月 18 日	こどもの国	11
41	平成 13 年 11 月 23 日	観音崎公園周辺	23
42	平成 14 年 6 月 8 日	小網代の森周辺	29
43	平成 14 年 6 月 22 日	葉山しおさい博物館及び一色海岸	30
44	平成 14 年 10 月 12 日	猿島	36
45	平成 14 年 11 月 2 日	観音崎公園周辺	22
46	平成 15 年 6 月 7 日	小網代の森周辺	20
47	平成 15 年 6 月 21 日	葉山しおさい博物館及び一色海岸	27
48	平成 15 年 10 月 11 日	猿島	33
49	平成 15 年 10 月 25 日	観音崎公園周辺	24
50	平成 16 年 6 月 17 日	小網代の森周辺	15
51	平成 16 年 7 月 17 日	葉山しおさい博物館及び一色海岸	31
52	平成 16 年 10 月 30 日	観音崎公園周辺	6

延べ参加人数 1795 名

(3) 交流事業

1) フォーラム、シンポジウム

国際シンポジウム「生物多様性の生態学的展望」

平成 5 年 12 月 1～5 日 京都国立国際会議場

国際生物学賞受賞者講演

「生命の多様性」 E. O. ウィルソン (ハーバード大学教授)

基調講演

「共生生物圏」 東 正彦 (京都大学生態学研究センター助教授)

「過去の大絶滅と現在直面する多様性の危機」 N. エルドリッジ (アメリカ合衆国自然史博物館研究所長)

「熱帯雨林の林冠 - 生物多様性の源」 井上民二（京都大学生態学研究センター教授）

「ディベルタス」 T. ユネス（国際生物学連合総裁）

パネルディスカッション 座長：川那部浩哉（京都大学生態学研究センター長）

参加者 一般市民：185名

春期特別セミナー「人間と自然との「共生」をめざして」

平成 5 年 3 月 28 日 ホテル コンチネンタル

「環境保全林創造と生態学の役割」 宮脇 昭（国際生態学センター研究所長）

「ビオトープによる自然復元への模索」 秋山恵二郎（日本ビオトープ協会会長）

対象者 一般市民・企業行政の環境問題担当者

国際セミナー「熱帯林の現状とその回復に向けて」

平成 6 年 10 月 7 日 湘南国際村センター国際会議場

「ボルネオカリマンタンにおける熱帯林」 荻野和彦（愛媛大学教授）

「マレーシアサラワク州における熱帯林」 モハドザキ（マレーシア農科大学講師）

「サラワク州ピンツルにおける熱帯林再生プロジェクトについて」 宮脇 昭（国際生態学センター研究所長）

パネル討論：荻野和彦 / 宮脇 昭 / モハドザキ

対象・参加者 国内外の熱帯林研究者企業自治体の環境問題担当者：124名

生態学講義「地域の森づくりから世界の森づくりへ」

平成 6 年 1 月 26 日 県政総合センター

「環境保全林に取り組んで40年」 宮脇 昭（国際生態学センター研究所長）

「土の中の小さな生き物の話」 原田 洋（横浜国立大学環境科学研究センター助教授）

「国際生態学センターの概要」 石原省三（国際生態学センター事務局長）

「宇宙から見た植物」 本多嘉明（横浜国立大学環境科学研究センター講師）

参加者 一般市民：90名

国際シンポジウム「21世紀に向けた緑の再生と創造」

平成 7 年 10 月 15 日 パシフィコ横浜

基調講演

「生態学の果たす役割」 ヘルムート・リート（オズナブリュック大学教授）

「環境倫理学のすすめ」 加藤尚武（京都大学文学部教授）

講演

「都市の緑と生態学」 フランク・ゴーリー（ジョージア大学教授）

「世界の森づくり」 宮脇 昭（国際生態学センター研究所長）

パネル討論

「自然と命・・・21世紀に向けた緑の再生と創造」 ゴーリー、リート、ニック、加藤尚武、宮脇 昭

対象・参加者 一般市民、環境NGO関係者、環境問題研究者、学生等：363名

生態学講義「都市における緑の役割」

平成 7 年 1 月 29 日 県政総合センター

「都市と自然環境」 井手久登（東京大学農学部教授）

「都市公園の管理手法」 磯谷達宏（国際生態学センター主任研究員）

「都市における水辺の環境」 川井英憲（横浜市水道局河川計画課課長補佐）

「都市における緑の役割」 宮本孝雄（清水建設(株)地球環境室部長）

「都市における緑の役割」 宮脇 昭（国際生態学センター研究所長）

対象・参加者 一般市民：200 名

環境フォーラム「水辺の環境と私たちの暮らし」

平成 8 年 11 月 30 日 川崎市産業振興財団

基調講演

「川と人の関わり」 三島次郎（桜美林大学教授）

「川の問題は環境問題の縮図」 桜井善雄（信州大学名誉教授）

パネル討論

「川の未来」 佐々木 寧、鈴木邦雄、桜井善雄、三島次郎、西村 浩、奥田重俊

対象・参加者 一般市民、企業行政の環境問題担当者、学生等：121 名

環境フォーラム「水辺の環境と私たちの暮らし」

平成 8 年 1 月 21 日 パシフィコ横浜会議室

実地報告連続講座

「水辺の環境と私たちの暮らし」 国際生態学センター

講演

「地域の自然環境を守るには」 柴田敏隆（コンサーベイショニスト）

「河川の自然環境を考える」 奥田重俊（横浜国立大学環境科学研究センター教授）

「ふるさととの山や河は今」 宮脇 昭（国際生態学センター研究所長）

対象・参加者 一般市民、企業行政の環境問題担当者、学生等：147 名

環境フォーラム「環境教育への新たな視点」

平成 9 年 1 月 25 日 パシフィコ横浜 会議センター

講演

「21 世紀の環境教育」 阿部治（埼玉大学教育学部助教授）

「環境教育と科学的自然観」 加藤尚武（京都大学文学部教授）

「森づくりを通じた環境教育」 宮脇 昭（国際生態学センター研究所長）

パネル討論

「情報化時代の環境教育」 座長：宮脇 昭 / 加藤尚武、阿部 治、白 雪梅

対象・参加者 一般市民、企業行政の環境問題担当者、学生等：194 名

環境フォーラム「21世紀の環境問題に果たすべき市民活動の役割」

平成10年2月14日 パシフィコ横浜会議センター

講演

- 「市民活動における楽しさの重要性」 中川重年（神奈川県森林研究所）
- 「市民活動へのバックアップ」 松下和夫（地球環境戦略研究機関）
- 「森づくりを通じた市民活動」 宮脇 昭（国際生態学センター研究所長）

事例研究

- 「グランドワーク三島/日本生態系協会」

パネル討論

- 「市民活動の新たな視点」 座長：宮脇 昭/関 健志、中川重年、松下和夫、渡辺豊博

対象・参加者 一般市民、企業行政の環境問題担当者、学生等：203名

環境フォーラム「地域生態系の保全をめざして」

平成11年1月23日 パシフィコ横浜会議センター

講演

- 「歴史的景観と地域生態系」 高木徳郎（早稲田大学文学部助手）
- 「開発と保全の狭間で」 鷺谷いずみ（筑波大学生物科学系助教授）
- 「誰のための環境保全か」 柴田敏隆（コンサーベーションイニシアチブ）
- 「保全から創造へ」 宮脇 昭（国際生態学センター研究所長）

パネル討論

- 「地球生態系を保全する知恵」 座長：宮脇 昭 /高木徳郎、鷺谷いずみ、柴田敏隆、小林哲子

対象・参加者 一般市民、企業行政の環境問題担当者、学生等：286名

環境フォーラム「地球共生系」

平成12年1月28日 パシフィコ横浜会議センター

講演

- 「共生のバランス」 石鍋壽寛（観音崎自然博物館副館長兼研究部長）
- 「遺伝子資源をどう守るか」 佐倉 統（東京大学情報学環助教授）
- 「ランビルで発見されたもの」 湯本貴和（京都大学生態学研究センター助教授）
- 「生物社会の掟」 宮脇 昭（国際生態学センター研究所長）

パネル討論

- 「生物多様性と共生」 座長：宮脇 昭/湯本貴和、石鍋壽寛、佐倉 統

対象・参加者 一般市民、企業行政の環境問題担当者、学生等：211名

環境フォーラム「みどりと情報」

平成13年2月3日 パシフィコ横浜会議センター

講演

- 「植生とは何か」 本多嘉明（千葉大学環境リモートセンシングセンター助教授）

「生物多様性の持続性」 岩槻邦男（放送大学教授）

「緑の効用」 佐々木 寧（埼玉大学工学部教授）

「緑の復権」 宮脇 昭（国際生態学センター研究所長）

パネル討論

「みどりの情報をどう読み解くか」 座長：宮脇 昭 / 本多嘉明、岩槻邦男、佐々木 寧
対象・参加者 一般市民、企業行政の環境問題担当者、学生等：272名

環境フォーラム「見直される都市の自然環境」

平成 14 年 2 月 2 日 パシフィコ横浜 会議センター

講演

「都市の中のビオトープ」 中村俊彦（千葉県立中央博物館研究部長）

「エコパークとは」 亀山 章（東京農工大学教授）

「都市の中の自然景観とは」 中越信和（広島大学総合科学部教授）

「ふるさとの森」 宮脇 昭（国際生態学センター研究所長）

パネル討論

「公共財としての都市の緑」 座長：宮脇 昭 / 中村俊彦、亀山 章、中越信和
対象・参加者 一般市民、企業行政の環境問題担当者、学生等：362名

環境フォーラム「緑の復元と創造」

平成 15 年 11 月 2 日 パシフィコ横浜 会議センター

講演

「水辺の再自然化」 奥田重俊（横浜国立大学名誉教授）

「21世紀の道路環境」 高野義武（(財)全国建設研修センター国際部長）

「湿原から見た自然保護」 波田善夫（岡山理科大学総合情報学部教授）

「森はいのち」 宮脇 昭（国際生態学センター研究所長）

パネル討論

「緑の復権」 座長：宮脇 昭 / 奥田重俊、高野義武、波田善夫
対象・参加者 一般市民：296名

2004 市民フォーラム「あすを植えよう 地球にいのちの森を」

（横浜市・毎日新聞社・横浜市緑の協会との共催）

平成 16 年 6 月 12 日 パシフィコ横浜 会議センター

基調講演

「21世紀のいのちの森づくり」 宮脇 昭（国際生態学センター研究所長）

「民の力」で新しい「公共」づくり」 中田 宏（横浜市長）

事例報告

布施川文生（横浜市緑政局長） / 鈴木淳雄（愛知県東海市長） / 河内山哲朗（山口県柳井市長）
 / 廣田康人（三菱商事広報部長） / 上山静一（イオン環境・社会貢献部長） / 石村章子（NPO 法人地球の緑を育てる会理事長）・箱崎俊一（NPO 法人福島県環境・エネルギー共生機構理事長） / 吉武美保子（NPO 法人よこはま里山研究所 ~ NORA 理事）

総合討論

進行：成井哲郎（毎日新聞地方編集局長）／鈴木邦雄（横浜国大大学院教授）／小暮和之（東日本旅客鉄道取締役総合企画本部経営管理部長）／森元 豊（九州電力環境部長）／中嶋義臣（NPO 法人横浜ひと・まち・くらし研究会理事長）／小林政典（横浜市緑政局緑政部長）

対象・参加者 一般市民：約 700 名

植樹祭「ふるさとの緑」（横浜市・毎日新聞社・横浜市緑の協会との共催）

平成 16 年 6 月 13 日 横浜市鶴見区末広町「ふれーゆ」周辺

一般市民約 900 名の参加による 1 万本植栽

2) 研究会

研究部では研修および交流を目的として、原則的に 1 ヶ月に 1 度の割合で生態学およびその周辺分野の研究者を招き、最新研究の話題提供をいただいている。それらのうち 3 回に 1 度は公開研究会とし、一般の方々を対象とした講演会を実施している。（話題提供者の所属・職名は当時のまま）

第 1 回 1993 年 11 月 1 日

『中国南東部の植生事情』

中村幸人（作新学院大学）

上海周辺の暖温帯夏雨常緑広葉樹林帯の植生とその保全状況について、スライドを用いた発表が行われた。

第 2 回 1993 年 12 月 10 日

『アジア・太平洋地域のマングローブ林』

佐々木 寧（埼玉大学）

熱帯～亜熱帯の海岸域に成立するマングローブ林の実態とその保全・再生について、スライドを用いた発表が行われた。

第 3 回 1994 年 1 月 5 日

『潜在自然植生推定のための古写真の利用について』

原田 洋（横浜国立大学）

明治・大正期に撮影された写真によって、横浜や鎌倉の社寺林が現存する森林と大きく異なっていたことが示され、これらの森林の現況から潜在自然植生を推定する上で注意点等が指摘された。

第 4 回 1994 年 2 月 18 日

『伊豆諸島のスダジイ林とタブノキ林の分布と動態及びその特徴』

上條隆志（筑波大学）

伊豆諸島の八丈島と三宅島においてスダジイとタブノキの分布と動態、およびその生態学的な特徴、特に競争解除によるニッチェの拡大について、OHP を用いた発表が行われた。

第 5 回 1994 年 3 月 18 日

『アマゾン熱帯林調査報告 - 自然林と再生実験』

磯谷達宏（JISE）

アマゾン川下流域のベレン周辺で行われた熱帯自然林の調査結果とその再生実験の経過について、スライドを用いた発表が行われた。特に赤道付近にもかかわらずやや明瞭な乾季があり熱帯雨林帯の辺縁域に位置する調査地域では、間欠伸長型のシュートをもつ常緑樹や一斉展葉型の落葉樹の構成比がかなり高いことが指摘された。

第6回 1994年 4月22日

『植栽の現況及び Bako 国立公園の植生について』

目黒伸一 (JISE)

1994年1月に現地で行った植樹祭の様様、植栽実験地での生長調査結果及び Bako 国立公園内の植生調査について、スライドを用いた発表が行われた。

『Introduction of tropical rainforest in Malaysia』

Mohamad Azani Alias (横国大院生)

マレーシアにおける熱帯雨林の分類と各極相群系の生態分布について、スライドを用いた発表が行われた。

第7回 1994年 5月31日

『暖温带林の構造と動態』

磯谷達宏 (JISE)

日本の暖温带沿岸域の自然林の群落動態について発表が行われた。主に林冠部にできたギャップにおける優占木の動態についての説明がされ、活発な議論が交わされた。

第8回 1994年 6月28日

『熱帯泥炭湿地林の構造とつる植物の生態』

原 慶太郎 (東京情報大学)

タイ国南部海岸沿いに位置する Narathiwat の泥炭湿地林調査プロジェクトの概要とこれまで得られた知見の発表が行われた。内容は設置した永久方形区内の毎木データ、現存量、つる植物の着性率、優占種の光に対する挙動、など多岐にわたった。

第9回 1994年 7月29日

『環境学習の方法について』

村上雄秀・磯谷達宏・白 雪梅 (JISE)

年間を通じて JISE が催す環境学習の進め方、方法について検討した。ケーススタディとして逗子・森戸川付近を踏査して、どのような方法、説明をするのが最も適切であるのか議論した。

第10回 1994年 9月30日

『Technological Cooperation in Environmental Management』

井口次郎 (横浜国立大学)

発表者がパプアニューギニアにおいて行った都市環境緑化の技術指導などいくつかの国際協力の事例が報告された。それらをもとに、途上国の環境保全に必要な森林保全において「適正技術」の普及を移転する必要性についての議論が行われた。

第11回 1994年12月2日

『三浦半島の自然環境の近況』

林 公義（横須賀市自然博物館）

逗子市・横須賀市以南の三浦半島についての地誌的特性から植生、動物相、土地利用、さらにその生態的影響など幅広い自然環境の変遷と現況の説明が行われた。また、湿地や海岸線などの失われつつある三浦半島の自然についても言及された。

第12回 1994年12月22日

『自然保護NGOの役割について』

関 健志（日本生態系保護協会）

これからの自然保護活動のあり方について、既に行われている欧米の事例や日本での効果的方法の提案といった運営方式から、今なにが保護されるべきなのか、そのためにはどのような活動をすべきかといった具体的内容に至るまで、広範な内容についての説明が行われた。

第13回 1995年1月6日

『炭素、窒素安定同位体比を利用した北太平洋におけるミズナギドリ科海鳥類の生態学的研究』

南 浩史（北海道大学）

南北両太平洋にまたがり長距離移動するハイイロミズナギドリおよびハシボソミズナギドリの体内中の炭素、窒素の同位体比を調べることにより、両種の摂餌生態、食地位、さらには移動のメカニズムについて説明された。

第14回 1995年2月14日

『西アフリカのチンパンジーの生態』

佐倉 統（横浜国立大学）

西アフリカのチンパンジーについて講師の研究および人類とチンパンジーの類似性や相違点などの説明のほか、佐倉先生が学生時代に取材・作製されテレビで放映されたビデオを通じてチンパンジーの生態の解説がされた。

第15回 1995年3月14日

『熱帯山地の生態学』

大沢雅彦（千葉大学）

東南アジアの熱帯山地の森林について、スライドを用いての説明のほか、森林限界と温量指数、樹木が受けられるエネルギーと葉の大きさ・樹高、多様度と高度などについて講師の考え方が示され、それに対する質問・討議が交わされた。

第16回 1995年4月19日

『神奈川県のアオスゲ類の分類と生育環境』

勝山輝男（神奈川県立博物館）

バラエティに富む日本産アオスゲ類のうち神奈川県に見られるものについて、小穂の位置、果胞の形態などの分類点について解説されるとともにそれぞれの種の分布や生育環境についても説明された。

第17回 1995年5月24日

『ミヤコタナゴの生育環境と繁殖生態』

石鍋寿寛（観音崎自然博物館）

淡水魚のミヤコタナゴが生育する水田の畦の川の現状や繁殖におけるマツカサガイとの共生関係、ミヤコタナゴの生殖時における特徴、さらに雄、雌、貝の数による競争の形態の変化などにわたる説明がされた。

第18回 1995年6月20日

『地球環境問題に関するリモートセンシングからのアプローチ』

柴崎亮介（東京大学）

リモートセンシングやGISを用いた植生図の作成などのグローバル地球環境のモニタリングおよび純一次生産量の推定、食糧生産力の推定などのモデリング手法、ならびにこれらの結果の森林と農地の競合を考慮した地球土地利用計画への応用について説明された。

第19回 1995年7月30日

『Plant communities of the salt marshes from the world included Japan』

Dietbelt Thannheiser（独・ハンブルグ大学）

カナダ、アイスランド、フィンランド、ニュージーランド、日本など寒帯から温帯までの世界の塩生草原について説明され、気候や地域による植物相や植生の違い、群落の形成が阻害されている要因などについて解説された。

『ドイツにみる再自然化の動き』

佐々木 寧（埼玉大学）

現在ドイツを中心に行われている森林や河川などの再自然化の現状・取り組み方、市民の利用方法、再自然化の思想的背景、都市の形態とその歴史ゴミのリサイクルのシステムなどについて説明された。

第20回 1995年9月26日

『小網代の自然と保全』

岸 由二（慶應義塾大学）

神奈川県三浦市に残された小網代の森における生物相や地理学的観点からの貴重さ、保全計画の現状について説明されるとともに、岸先生個人の今後の首都圏近郊における環境保全に対する考え方について話され、議論を交わした。

第21回 1995年10月2日

『上級研修参加国における生態学と環境問題』

JISE 生態学研修上級コース参加者

生態学（上級コース）参加者の研究テーマを紹介するとともに、参加者各国（ブラジル、中国マレーシア）における生態学的トピックスや環境問題を提示し、それについて各々の立場や専門分野からみた意見を交わした。

第22回 1995年11月14日

『日本の自然保護の活動と諸問題』

中井達郎（日本自然保護協会）

日本自然保護協会の運営方法や保護活動の方法普及啓発活動、今後の展望などについて説明された。また、長良川河口堰問題などいくつかの具体的な環境保護問題を例にその経緯、背景、現状、問題点などについて解説された。

第23回 1995年12月18日

『自然観察の指導の方法』

千羽普示（国立科学博物館付属自然教育園）

自然教育園の成り立ち、年間行っている自然観察会講座、実習などの自然教育活動の方法などについて説明され、豊富な知識と経験から日頃留意している点、研究活動との時間配分についても話された。

第24回 1996年1月29日

『都市公園の生態学的な管理方法について』

磯谷達宏（JISE）

神奈川県内の都市公園管理状況の現地調査と、生態学的基礎調査にもとづく公園管理計画の策定に参加した経験をもとに、都市公園の生態学的管理の原則と具体的手法およびその機能について説明した。

第25回 1996年2月19日

『ビオトープの保全と復元－わが国の現状と課題』

桜井善雄（応用生態学研究所）

現在、日本で行われているビオトープの現状をドイツのビオトープの事例を交えてスライドで紹介されるとともに、生態的観点からの問題点さらに今後の取り組み方について話された。

第26回 1996年4月23日

『幼苗植栽の事例紹介』

高野義武（建設省相武国道工事事務所）

これまでに建設省が手がけてきた幼苗による環境保全林形成の事例として、河川沿いの土手、土砂崩れ跡地、バイパス道路沿い、長野オリンピック競技予定地などの植栽例や表土保全、植栽管理の方法について話された。

第27回 1996年5月14日

『丹沢の森林について』

遠山三樹夫（横浜国立大学）

丹沢三塊におけるブナ枯れ、植生破壊などの問題について、丹沢大山自然環境総合調査団のこれまで得られた調査にもとづき、酸性霧、シカ、人為による踏圧、土木・林業政策上の問題など多角的な視点から説明された。

第 28 回 1996 年 6 月 21 日

『モンゴル草原におけるバイオマス計測』

本田嘉明（千葉大学）

リモートセンシング技術の歴史を説明され、現在進められているモンゴル草原のバイオマス量の測定プロジェクトにおける現地調査とリモートセンシング技術の利用法について説明された。

第 29 回 1996 年 7 月 10 日

『自動車業界における環境問題への取組』

小野 豊（株式会社いすゞ自動車）

リサイクル、ローミッション車、排気ガス抑制など現在自動車会社が取り組んでいる具体事例やライフサイクルアセスメントの方法などが紹介され、自動車産業の形態から技術論にいたるまでの広範囲について活発な議論が交わされた

第 30 回 1996 年 8 月 30 日

『湾岸都市の自然環境の保全と復元』

中村俊彦（千葉県立中央博物館）

千葉市の谷津を中心とした農村生態系の特徴を解説され、その歴史の変遷についての考察が示された。また、植生復元についての基本的な考え方についても言及された。

第 31 回 1996 年 9 月 20 日

『多自然型河川工法とその安全性』

西川博章（JISE）

これまで日本で行なわれている河川改修（多自然型河川工法）の事例の紹介とともに、現在の日本の河川において、その安全性・耐久性について河川工学的観点から議論が交わされた。

第 32 回 1996 年 10 月 16 日

『国際植生学会南アフリカエクスカージョン参加して』

目黒伸一（JISE）

世界の植物区系における 6 植物界の一つを形成する Fynbos や Thicket と呼ばれる低木林、常緑広葉樹林、マングローブなどの南アフリカの植生をスライドを交えて紹介された。

第 33 回 1996 年 11 月 13 日

『街路樹の防火機能について』

佐々木 寧（埼玉大学）

街路樹や都市公園などの樹木が災害時に果たす役割について、阪神大震災や浦和市などの例に説明され、都市域の火災時における安全性を樹木配置、耐火性の樹種による差異、公園面積などから論じられた。

第 34 回 1996 年 12 月 6 日

『熱帯泥炭湿地林開発とその影響』

鈴木 覚（東京農業大学）

タイ国ナラチュワ県における泥炭湿地林や二次林における微気候の研究について発表された。特に熱の収支、Co₂ 吸収量などの計測方法、結果とその意義などについて議論が交わされた。

第 35 回 1997 年 1 月 17 日

『熱帯林の再生について』

石川竹一（国際熱帯木材機関）

ITTO の成り立ちとその背景、役割、現在行っているプロジェクト、他の公的国際機関等について説明され、世界規模の森林保全方法等について議論が交わされた。

第 36 回 1997 年 2 月 21 日

『山地における林床型分布の地生態学的再検討の可能性』

高岡貞夫（都立大学）

地理学的アプローチと生態学的アプローチの融合した地生態学という観点から森林の成り立ちを考える必要性を説明された。具体的な事例として周氷河作用を受けた地形と森林限界の関係や火山灰、土石流がササなどの林床植生に与える影響について述べられた。

第 37 回 1997 年 3 月 11 日

『International workshop on Biotop Mapping in Urban Area』

青木淳一・藤原一繪・（横浜国立大学）Norbert Muller（横浜国立大学）、宮脇 昭（JISE）

ドイツを始めヨーロッパで広く行われている都市域におけるビオトープマッピングについて、植生学的観点からその方法や役割をスライドや野外講義を交えて説明された。また、ビオトープという言葉の意味や、その定義についても論議が交わされた。

第 38 回 1997 年 4 月 3 日

『野生鳥獣の管理』

飯村 武（関東学院大学）

シカをはじめイノシシ、サルなど人間の生活と関わり合いの深い野生鳥獣の管理について、法律、日本各地における被害の現状とその原因、具体的な防除方法、管理すべき安定密度の決定と事例、動物に対する見方における民族的心理面の背景など多岐にわたる説明がなされた。

第 39 回 1997 年 5 月 27 日

『自然とワイルドライフ』

柴田敏隆（コンサーベーションリスト）

現代と数十年前の日本における子供を取り巻く自然環境の変化が与える子供の身体的、心理的そして行動的影響について解説され、それらの問題点を解決するための環境倫理、環境教育、施設の設置などの必要性を説かれた。

第 40 回 1997 年 6 月 17 日

『シウリザクラの生活史特性』

小川みふゆ（東京農工大学）

日光地方における針葉樹林や落葉広葉樹林に生息するシウリザクラの根萌芽と実生の生存率や

分布特性の比較、シウリザクラが出現する林分の光環境と根萌芽が動的に果たす役割の関係について説明、議論された。

第41回 1997年7月31日

『相模湾における海洋生物の変遷』

池田 等（葉山しおさい博物館）

昭和40年代高度経済成長に伴い、相模湾における環境の変化及び海洋生物の生物相の変化について、少年時代からの観察で得た体験を混えてスライドによる説明がなされた。また、昭和40年頃の三浦半島の自然環境についても触れられ、現在では見ることのできない動物（シカやサル等）や植物等について話がおよんだ。

第42回 1997年9月2日

『環境保全技術』

関 基治（株式会社ミック）

近年、日本で行われている近自然工法や環境保全技術について様々な施工事例の紹介を交えて技術的観点から説明がなされた。また、現在ミックで行っている環境保全林や、ヤシの繊維を利用した植生ロール等について、その生態的特性や利点及び問題点など、現場作業で得られた経験を基に説明された。

第43回 1997年10月24日

『植物群落とその立地—マングローブ林の例—』

持田幸良（横浜国立大学）

東南アジアおよび太平洋島嶼地域におけるマングローブ林と立地の関係を群落の種構成、群落構造、植生配分、土壌分析、地形、花粉分析などの多面的解析からアプローチしている研究の結果や経過について説明した。

第44回 1997年11月15日

『日中間の植生・景観の比較研究』

日本生態学会関東地区会

日本と中国の照葉樹林やブナ林における植生の比較、中国東部の植生区分、浙江省天童寺のシイ林、北半球照葉樹林を構成する樹木の特徴や消長など広範なテーマについて日本人研究者4名、中国人研究者2名による講演が行われた。なお本研究会は日本生態学会関東地区会との共催である。

第45回 1997年12月16日

『スペイン植物社会学会に参加して』

目黒伸一（JISE）

9/24～27南スペインのアルメリア大学で開かれた植物社会学における研究の動向、発表形態、エクスカーションでみられた半砂漠地帯、火山、高山の植生をスライドを交えて紹介された。

第46回 1998年1月27日

『カナリア諸島、テネリフェの照葉樹林』

中村幸人（作新学院大学）

アフリカ大陸の北西に位置するテネリフェ島の雲霧帯に見られる照葉樹林の地誌的、地理的特性、植生概観と微地形との関係、主な構成種の種特性などについてスライドを交えて紹介があった。

第47回 1998年3月3日

『燃料材の過去・現在・未来』

中川重年（神奈川県森林研究所）

雑木林のこれまでの利用方法、里山の現状と未来予想、雑木林を構成する樹種の萌芽特性、国外の薪炭林、実際に中川氏が行っている市民参加の森づくりの基本的考え方、具体的手法など多岐にわたって説明があった。

第48回 1998年5月19日

『鳥の渡りと保全』

樋口広芳（東京大農学生命科学研究科教授）

越冬地、中継地、繁殖地を含めた渡り鳥の保全の問題に関し、日本に渡来する夏鳥の減少と越冬地である熱帯林の減少との関係、衛生追跡によるマナヅル、ナベヅルの渡りのコースや繁殖地、中継地での生息環境の解明等について講演された。

第49回 1998年6月16日

『植物社会学的分類に係わる諸問題』

大野啓一（横浜国立大学）

植生研究における代表的な研究方法である植物社会学的な分類に関し、景観単位など他の分類単位との比較、日本海側分布のブナ林を例にとった群落分類の実際とその問題点などについて講演された。

第50回 1998年7月27日

『利根川源流域の植物的自然』

鈴木伸一（JISE）

利根川源流域の植物的自然について、2年間の調査結果に基づき、多雪地特有の植物群落とその分布や生態、ブナの生活形、自然景観などについて報告があった。

第51回（公開） 1998年9月29日

『北東アジアの植生帯の特徴』

沖津 進（千葉大学）

サハリン、沿海州を中心とした北東アジア地域の植生について、優占種の樹種特性と気候条件との関係から、その成立気候に関して説明された。特に内陸部では、春先の乾燥、沿海域では夏の湿度が植生帯の成立に支配的な要因である

第52回 1998年11月18日

『ニホンジカ過密生息地における植生の現状—特にササ類を中心として』

矢ヶ崎朋樹（JISE）

近年、日本各地で顕著となった「ニホンジカの採食が及ぼす植生への影響」についてとりあげた。

とくに丹沢山地におけるスズタケの退行・枯死状況を中心に、奥日光・大台ヶ原における植物の生育状況および植物群落が直面する問題について報告があった。

第 53 回 1998 年 11 月 18 日

『J I S E 熱帯林プロジェクトの現状について』

目黒伸一・阿部聖哉 (JISE)

マレーシアおよびブラジルにおける熱帯林再生プロジェクトにおける植栽に関する諸条件やこれまでに明らかになった事柄などについて報告があり、今後の方向性や問題点などについて討議した。

第 54 回 1998 年 12 月 18 日

『植生帯の区分をめぐって』

大場達之 (千葉中央博物館)

古くて新しい問題である日本の植生帯の区分をめぐって、植生帯の基準としての「中立立地の支配的群落」への統一、植物の区系区分との混同の排除、個々の種の分布の掌握からの積み上げの必要性など、現状の問題点と今後の展望について講演された。

第 55 回 1999 年 1 月 27 日

『中国華東地域の植生体系』

王 希華 (中国・華東師範大学)・韓 也良 (中国・安徽師範大学)

華東地域の植生の調査研究について、その進捗状況の報告があった。

第 56 回 1999 年 2 月 23 日

『ニュージーランドの植物相と植生の概要』

田中徳久 (神奈川県立生命の星・地球博物館)

ニュージーランドの植生やフロラについて、特に植生帯区分の現状や固有種・帰化種などの既説を中心に報告があった。ニュージーランド植物区系に位置づけられた現地の自然環境について議論した。

第 57 回 1999 年 4 月 13 日

『E U 農業開発の転換からみた欧州環境主義』

梶浦雅己 (横浜国立大学)

地球的環境汚染の対応に取り組む欧州の農業開発転換のケースについて、欧州環境主義の具体的な規格である E U オーガニック規格の成立過程を中心とする説明がなされた。

第 58 回 1999 年 5 月 20 日

『植物の物質生産・再生過程の解析と、その生態学的意義』

横井洋太 (北里大学)

光合成、呼吸消費、生殖部分、物質生産部分など植物の成長過程における物質生産再生モデルの

解説や実測のデータの比較などを、主に自身の研究を用いて説明された。

第 59 回（公開） 1999 年 6 月 29 日

『カワラノギクの保全生態学的研究』

倉本 宣（明治大学）

関東地方と東海地方の一部の河川に限定されるカワラノギクについて、多摩川のメタ個体群を中心に、生活史や分布、個体群の維持機構についての研究報告、およびカワラノギクを保護するための取り組みや提案が紹介された。

第 60 回 1999 年 8 月 17 日

『北海道の植物相と植生 襟裳岬～大雪山旭岳』

矢ヶ崎朋樹（JISE）

第 4 回大会エクスカージョンの参加を機に、主に大雪山旭岳の植物相と植生についてスライドを交えて解説した。

第 61 回 1999 年 9 月 29 日

『トラからみた中国史』

上田 信（立教大学）

ここ数百年の中国の自然環境の変化を、野生生物であるトラの生息環境という観点からとらえ評価するというユニークな講演をされた。

第 62 回 1999 年 11 月 5 日

『北極域における環境変動と植物の動態』

南 佳典（玉川大学）

北極域に位置するノルウェーのスピッツベルゲン島の自然環境について、植生と氷河地形とのダイナミックな関係を中心に講演された。

第 63 回 1999 年 11 月 5 日

『暖帯照葉樹林と黄褐色森林土』

永塚鎮男（日本土壌研究所）

日本の成帯性土壌型である褐色森林土、黄褐色森林土、古赤土の分布と成因を理化学的性質の違いについて、さらに中国雲南省のラテライト性赤色土と黄褐色森林土についても講演された

第 64 回 2000 年 1 月 14 日

『雪がたすけるブナの更新』

島野光司（横浜国立大学）

日本海側・太平洋側での、ブナの更新様式の違いをもたらす要因として、雪による被覆が動物による種子の被食やササによる実生の被圧を軽減する効果について、野外での実証的なデータにより説明された。

第 65 回（公開） 2000 年 2 月 28 日

『21 世紀の生物資源としての植物の利用』

佐々木 寧（埼玉大学部）

近年ヨーロッパで実施されている生物資源を用いた発電や、燃料化についての実態が報告された。

第 66 回 2000 年 4 月 20 日

『地球観測衛生からのリモートセンシングによる土地被覆図の作成』

新井田秀一（神奈川県立生命の星・地球博物館）

リモートセンシングによってこれまでに作られた土地被覆図の問題点を提起し、自然環境調査や保全等において応用可能な凡例基準の必要性について説明された。

第 67 回 2000 年 5 月 12 日

『土壌動物の研究からわかること』

島野智之（農水省東北農業試験場）

土壌動物の生態（特に消化酵素から食性を調べる）をササラダニの研究を通して紹介された。また、植生と密接な関連がある、

第 68 回 2000 年 6 月 30 日

『地中海と日本の照葉樹林について』

中村幸人（作新学院大学）

地中海気候下にあるカナリア諸島の照葉樹林の特徴やそれらと伊豆諸島の植生との種組成・構造・生態・植生配分などに関する植物社会学的な比較研究の成果が紹介された。

第 69 回 2000 年 8 月 18 日

『トウキョウサンショウウオの生息地の気候的、地質的、地史的な特徴』

伊原禎夫（小田原女子短期大学）

トウキョウサンショウウオの食性、生息環境、繁殖様式など、生活様式について説明され、本種の飛び地的な分布を現在の環境条件や氷期の環境変動を踏まえて議論が行われた。

第 70 回（公開） 2000 年 9 月 1 日

『溪畔林の動態、生態的機能および再生技術』

崎尾 均（埼玉県農林総合研究センター）

主に温帯の溪畔林について、その植生としての特徴、主要樹種（サワグルミ、シオジ、カツラ）の種特性、砂防工事に伴う植生復元の実験などについて、最新の知見を講演された。

第 71 回 2000 年 10 月 24 日

『河川水辺の国勢調査・植物調査編の成果活用について』

矢ヶ崎朋樹（JISE）

全国レベルの植生情報として重要な「河川水辺の国勢調査・植生データ」について、活用の際す

る問題点の報告があった。また具体的な活用事例が紹介され、汎用性に優れた生物調査としての必要条件や課題が提案された。

第72回 2000年12月1日

『タンチョウの空中調査の方法論』

百瀬邦和(山階鳥類研究所)

日本におけるタンチョウの調査方法の解説、生態、食性や分布・個体数の歴史的変遷、その原因と周囲に与える影響、巣作りの方法、周囲の植生との関係、海外のタンチョウの紹介など多岐に亘り説明された。

第73回 2001年1月10日

『東南アジアの熱帯湿地林について』

鈴木邦雄(横浜国立大学)

農地開発により消滅の危機にある東南アジアの熱帯湿地林について、長年の研究から明らかになった植生動態や立地特性について解説された。さらに熱帯アジアにおける有用植物の利用についても説明があった。

第74回 2001年2月23日

『植生生態学的植栽の基礎となるポット苗生産について』

鈴木伸一(JISE)

植生生態学的植栽に広く用いられているポット苗の生産過程、生産状況について、生産現場視察による話題提供を行い、それに基づいてポット苗の利点、育成方法などについて積極的な討論が行われた。

第75回(公開) 2001年4月27日

『「機能から見た環境保全林」について』

原田 洋(横浜国立大学)

潜在自然植生概念を基礎とした「環境保全林」について、防災・修景など、市街地における緑地の機能から見た評価について話題提供していただいた。

第76回 2001年5月31日

『植物の種多様性と群落多様性』

星野義延(東京農工大学)

植生調査資料を用いた種多様性指数算定方法土地利用と地域の種多様性、島嶼における群落多様性、丘陵地の集水域における植物種多様性と群落多様性などについて、自身のデータを用いて説明された。

第77回 2001年7月4日

『環境保全林に関するワークショップ』

村上雄秀（JISE）

各地で広く実施されている「環境保全林」手法 による植栽について、歴史・特徴・考え方・実例・反響などを紹介し、周辺分野での意見、今後の展開などについて議論した。

第78回 2001年 8月10日

『神奈川の森林・林業について』

羽太博樹（神奈川県林務課）

神奈川県の森林と林業施策に関する話題提供があった。人工林の老齢化を背景に、今後展開すべき施策の方向性などが討議された。

第79回（公開） 2001年10月30日

『東海丘陵要素植物が生育する湿地の地形と水文について』

菊池多賀夫（横国大院環境情報研究院教授）

東海丘陵に成立する湿地について、生育する植物群の特徴、地形的な位置づけ、水分条件との関わり、湿地の成立過程とその変化など広範な視点から話題提供を受けた。

第80回 2002年 1月22日

『進化する企業緑地』

原口 眞（株式会社インターリスク総合研究所）

企業活動に関わりのある緑地（企業緑地）を題材に、多様化する企業緑地活動の現状と背景について解説された。企業緑地の科学的管理による経営資源化や地域環境創造の拠点としての必要性が提起された。

第81回 2002年 5月28日

『日本における夏緑広葉樹二次林の植生体系について』

鈴木伸一（JISE）

日本のブナクラス域下部からヤブツバキクラス域にかけて広く分布している夏緑広葉樹二次林について、その植生体系を中心に分布、生態についての研究成果が報告された。

第82回（公開） 2002年 6月28日

『外来・移入生物の環境問題』

佐々木 寧（埼玉大学）

海外からの移入動植物が在来の生物・生態系に与える影響についての事例が紹介された。緊急問題として、近縁種による在来の貴重植物の遺伝資源の汚染について強調して報告された。

第83回 2002年10月 8日

『生態環境資源評価に基づく沿岸域環境計画 地域生態系プロジェクト中間報告』

矢ヶ崎朋樹（JISE 研究員）

日本の代表的な高度利用地域・沿岸域が直面する諸課題を切り口に、その総合的環境管理に関わ

る問題点と課題が指摘された。

第 84 回研究会（公開） 2002 年 12 月 12 日

『タイ北部ドイインタノンの植生』

原 正利（千葉県立中央博物館）

内容タイのドイインタノン国立公園に設置された調査区における長期継続生態調査から、植物相および植生について種の分布、植生タイプ、立地との関係など具体的な解析データやスライドを交えて解説・説明された。

第 85 回研究会 2003 年 1 月 17 日

『天然林における環境の不均一性がブナの更新成功に与える影響』

富田瑞樹（横浜国立大学）

ブナの種子散布過程を明らかにし、散布先における林冠構成種の開葉時期やササの繁茂状況等によって特徴付けられる環境の不均一性がその後のブナ稚樹の生育に大きく影響することが解説された。

第 86 回研究会 2003 年 5 月 6 日

『イヌホオズキ類の分類』

勝山輝男（神奈川県立生命の星・地球博物館）

現在、複数の帰化種が混在しているイヌホオズキ類について、神奈川県内に見られる近似種の形態的な特徴、生態、分布などについて近年の研究成果を基に解説された。

第 87 回研究会（公開）2003 年 06 月 04 日

『自然環境保全センターの林床植生保全の取り組み - とくに植生保護柵の効果について』

田村 淳（神奈川県自然環境保全センター）

自然環境保全センターの取り組みから、丹沢における環境保全施策・活動の最新情報が紹介された。とくに、植生保護柵による稀少植物の生育保護効果についてがあった。森林全体としての総合的な観点からの植生モニタリングの必要性が討議された。

第 88 回研究会 2003 年 8 月 12 日

『マレーシア熱帯林再生プロジェクトの現状とこれまでの研究成果』

目黒伸一（JISE）

本財団が発足当初からマレーシア・サラワク州ピンツルで実施している熱帯林再生プロジェクトの植栽実験及び植生調査結果による種生態や群落特性などについて、これまで公表された成果や未発表のデータについて説明・討議した。

第 89 回研究会 2003 年 10 月 1 日

『自然植生の成立要因に基づく潜在分布域の推定に関する研究』

楠本良延（横浜国立大学）

神奈川県における自然植生の分布（種組成及び種）並びに環境条件のデータベース化に基づき、潜在自然植生の推定を試みた。既存の潜在自然植生図との対応も良好であり、潜在自然植生の地図化手法としての今後の可能性、有効性について議論された。

第90回研究会 2003年11月27日

『河川敷の後背水域形成における規則性と植物群落の関係』

吉川正人（東京農工大学）

河川敷の後背水域の形成プロセスと植物群落の関係について鬼怒川の中流域を例として説明された。河川の河道変化や後背水域形成後の時間経過に伴う立地形態と植物群落の変遷、植物相の特徴などについて話された。

第91回研究会 2004年1月29日（木）

『日本とカムチャツカ半島の高山植生について』

中村幸人（東京農業大学）

一般に多彩と考えられているカムチャツカ半島の高山植生について、日本との類縁性や植物相上の差異などを軸に、近年の調査結果を基に解説された。

第92回研究会（公開）2004年2月23日

『順応的管理による自然再生』

安島美穂（東京大学）

自然の潜在的回復力を高めるための手段として、埋土種子を利用した自然再生の取り組みが紹介された。埋土種子の活用は失われつつある希少種の保全に効果的であることが説明された。また、自然再生における地域連携ネットワークについて紹介があった。今後、産・官・学・民の協働スタイルを如何に構築してゆくか、などの課題が討議された。

第93回研究会 2004年06月16日

『マハレ山塊における野生チンパンジーの研究』

保坂和彦（鎌倉女子大学）

タンザニア・マハレ山塊に成育するチンパンジーの大人オス間の社会的相互作用、小型哺乳類に対する捕食行動と肉分配行動、音声コミュニケーションなどについて解説・説明された。

第94回研究会 2004年7月21日

『山岳地の自然環境保全研究 雪田植生復元の実践から自然公園保護計画の策定まで-』

栗田和弥（東京農業大学地域環境科学部講師）

登山者の踏みつけによる荒廃が深刻な問題になっている多雪地の雪田植生について、巻機山の事例を中心に、組織形態や方法など具体的な植生復元の取り組みが紹介された。

(4) 普及啓発事業

1) マレーシアへの熱帯林再生植樹研修

マレーシアのボルネオ島において、再生不可能といわれた熱帯雨林とその再生への取り組みへの理解を深めるため「ボルネオ熱帯雨林再生植樹の旅」を毎年8月に実施し、地元の人々とともに植樹を行っている。

回数	日 程	参加者(人)	植栽本数(本)	植栽面積(m ²)
1	平成 6 年 1 月 22 ~ 29 日	15	3,000	1,000
2	平成 6 年 8 月 1 ~ 7 日	18	5,000	1,000
3	平成 7 年 8 月 21 ~ 28 日	58	3,000	1,000
4	平成 8 年 8 月 19 ~ 25 日	27	3,000	1,000
5	平成 9 年 8 月 25 ~ 31 日	15	3,000	1,000
6	平成 10 年 8 月 24 ~ 31 日	34	3,500	1,000
7	平成 11 年 8 月 24 ~ 31 日	25	3,000	1,000
8	平成 12 年 8 月 23 ~ 28 日	27	3,000	1,000
9	平成 13 年 8 月 23 ~ 28 日	27	3,000	1,000
10	平成 14 年 8 月 22 ~ 27 日	30	3,000	1,000
11	平成 15 年 8 月 21 ~ 26 日	26	3,000	1,000
12	平成 16 年 8 月 19 ~ 24 日	29	3,000	1,000
合 計		331	38,500	12,000

2) 植生データサービス

当財団のホームページでは、植物社会学の教育・普及およびその実社会での応用を支援することを目的として、2004年12月より無償のデータサービスを開始した。

『日本植生体系ウェブサービス』(Phytosociological system Webservice-Japan)は、日本の主要な植物群落(群集)の体系と個々の植生単位の和名・学名・著者・記載年が閲覧・検索できる。現在は植生単位名のみに残っているが、今後は植生単位の解説などを含めたより詳細な情報を盛り込んだ充実したサービスが提供できるよう計画中である。

また、併設されている『植物群落データベース』(Phytosociological plant community database)は、横浜国立大学 COE プログラム(生物・生態リスクマネジメント)と本国際生態学センターがとりまとめた、日本の植物群落に関するデータベースである。本データベースでは、『日本植生誌 I ~ X』(至文堂)および横浜国立大学関係を中心とした研究者が植物社会学的手法に基づいて記載・規定した植物群落の名称、記載者、記載年、出典などを検索・表示できる。

(1) 生態環境研究

第1巻第1号(1994年3月30日発行)

生態環境研究 ECO-HABITAT:JISE Research 創刊の辞(宮脇 昭)

原著

- ・秩父山地のウラジロモミ - コメツガ林について(村上雄秀)
- ・伊豆半島南部の小流域における常緑および夏緑広葉二次林の分布とその成立要因(磯谷達宏)
- ・マングロ - ブ林的保全と開発 - インドネシア チラチャップ、セガラアナカンを例として - (佐々木 寧)
- ・三浦半島南端に生育する樹木の分枝と枝年輪数(目黒伸一)
- ・NOAA NDVI データを用いた陸上現存純一次生産力の推定(白雪梅・Elgene O.Box・柴崎亮介)
- ・Balloon を用いた空中写真による植生判読(鈴木邦雄・長野敏英・渡辺隆一)

短報

- ・中国 Anhui 省で記録した短期矮性湿原(中村幸人)

研究会記録

第1回 杭州(中国東南部)周辺の照葉樹林帯について(中村幸人) / 第2回 熱帯アジア、マングロ - ブ林的現状(佐々木 寧) / 第3回 潜在自然植生推定のための古写真の利用について(原田 洋) / 第4回 伊豆諸島のスダジイ林とタブノキ林の分布と動態およびその特徴(上条隆志)

第2巻第1号(1995年9月30日発行)

原著論文

- ・A case study on global land use planning from the view point of ecosystem services (X. Bai and R. Shibasaki)
- ・Rehabilitation of degraded tropical forest area in Sarawaku using indigenous tree species-the Binturu experience. (M. Z. Hamzah, O. Bojo, A. H. M. Taha, M. A. Alias, N. M. Majid and I. A. A. Malek)
- ・都市における環境保全林のリターフォールについて(長尾忠泰・原田 洋)
- ・横浜市の一地域における明治前期の植生の変遷(原田 洋・原田敦子)
- ・ユートピア論とエコロジー思考に関する一考察(鈴木邦雄・小林ちえみエレナ)

研究資料 Research Material

- ・城ヶ島におけるクマゼミの利用木について(磯谷達宏)

記録

- ・中国科学院生態学環境研究センターを訪ねて(白雪梅)

研究会記録

第5回 アマゾン熱帯林再生プロジェクトについて(磯谷達宏) / 第6回 An introduction to tropical rain forests in Malaysia (Mohamad Azani Alias) / 第7回 暖温帯林の地理的構造と動態(磯谷達宏) / 第8回 熱帯林泥炭湿地林の構造とつる植物の生態(原慶太郎) / 第9回 環境学習の指導方法について(磯谷達宏) / 第10回 途上国の環境管理における国際

協力 - 「適正技術」の視点から - (井口次郎) / 第 11 回 三浦半島の自然環境の近況(林公義) / 第 12 回 自然保護NGOの役割について(関 健志) / 第 13 回 炭素、窒素安定同位体比を利用した北太平洋におけるミズナギドリ科鳥類の生態学的研究(南浩史) / 第 14 回 西アフリカ、ギニア共和国ボソウに生息する野生チンパンジーの生態(佐倉統) / 第 15 回 熱帯山地の生態学(大沢雅彦) / 第 16 回 神奈川県のアオスゲの分類と生育環境(勝山輝男)

第 3 巻第 1 号 (1996 年 12 月 30 日 発)

原著論文

- ・Woody vegetation in Bintulu and Similajau National Park, Malaysia. (Y. Murakami, S. Meguro, M. A. Allas, H. O. bin Ismawi)
- ・Phytosociological studies on tropical peat swamps 5. Forest vegetation at Naman, Sarawaku, East Malaysia. (K. Suzuki, N. Kaneko, E. C. O. Khun and F. Tieh)
- ・琵琶湖の湖岸植物相と分布類型 (佐々木 寧)
- ・都市近郊に局所的に残存する森林植生について 埼玉県朝霞市の例 (浅見和弘)

研究ノート

- ・List of species planted in environmental protection forests in the Amazon delta region (T. Isogai)

研究会記録

第 17 回 ミヤコタナゴの棲息地の現状(石鍋尋寛) / 第 18 回 地球環境問題に関するリモートセンシングからのアプローチ(柴崎亮介) / 第 19 回 欧州における「多自然型川づくり」(佐々木 寧) / 第 21 回 The Miyawaki Method in the Amazon, Para State, Brazil (Antonio Moreira) / 第 22 回 日本における自然保護の状況(中井達郎) / 第 23 回 教育普及活動の方法について(千羽晋示)

第 4 巻第 1 号 (1997 年 12 月 30 日 発行)

原著論文

- ・A study of the characteristics and sustainable utilization of secondary forests in the Amazonian estuary (A. Tsuchiya and M. Hiraoka)
- ・New perspectives for bioregionalism -Dose profitability save the Earth? (H. T. H. Kobayashi and H. Tsujii)
- ・横浜本牧地域の明治期前期の植生景観(原田 洋・原田敦子)
- ・三浦半島南部における明治期の植生図化と植生の変遷について(山田麻子・原田 洋・奥田重俊)

研究ノート

- ・天目山の古代林(佐々木 寧)

研究会記録

第 24 回 都市公園の生態学的な管理方法について(磯谷達宏) / 第 27 回 滅びゆく丹沢の自然林(遠山三樹夫) / 第 28 回 植生リモートセンシング(本多嘉明) / 第 29 回 自動車業界における環境問題への取り組み(小野豊) / 第 30 回 湾岸都市の自然環境の保持・復元(中村俊彦) / 第 31 回 日本におけるビオトープづくり(西川博章) / 第 32 回 国際植生学会南

アフリカエクスカージョンに参加して(目黒伸一) / 第33回 街路樹の防火機能について(佐々木 寧) / 第34回 熱帯湿地林伐採が熱・CO₂フラックスに与える影響(鈴木覚) / 第35回 熱帯林の直面する問題とITTOの役割(石川竹一) / 第36回 山地における林床植生の地生態学的検討の意義(高岡貞夫) / 第33回 Assessment of urban habitats for nature conservation in Japan (Norbert Muller) / 第34回 野生鳥獣の管理(飯村 武) / 第35回 自然・子ども・Wildlife(柴田敏隆) / 第36回 シウリザクラの生活史とその特性(小川みふゆ)

第5巻第1号(1998年12月30日発行)

原著論文

- ・Vegetation mapping in Shin-Yokohama district of Yokohama City in the early Meiji era and the changes of vegetation during 115 years (H. Harada, A. Harada and K. Hotta)
- ・大津市における自然環境評価と自然環境保全に関する研究(小林圭介・富士 撰・森本幸裕)
- ・Growth behavior of some species through experimental reforestation on Borneo Island (S. Meguro)
- ・EU農業開発の転換からみた欧州環境主義 - Social Problem Solving Process Model による考察 - (梶浦雅己)

短報

- ・赤城山および三ツ峠のジゾウカンバ林について(鈴木伸一)

研究ノート

- ・磐梯山北東斜面におけるアカマツ, ヤシャブシ, コゴメヤナギ林の種組成と地形分布(阿部聖哉)
- ・スズタケ個体群の退行・再生状況と形態的特徴について(矢ヶ崎朋樹)

第6巻第1号(1999年12月30日発行)

原著論文

- ・樹幹横断面の試料の作成とその観察(土屋彰男・石佐古早実)
- ・中国都市のモータリゼーション化と街路樹 - 上海市、南京市を例として - (佐々木 寧)

特集 . 中国浙江省天童寺の植生と景観

- ・An ecological overview of vegetation and landscape of Tiantong National Forest Park. (Y.-C. Song and X. Wang)
- ・Phytosociologically comparative study of the evergreen broad-leaved forest around Tiantong, in Zhejiang Province, Eastern Japan. (K. Kawano, Y. Nakamura・Y.-C. Song)
- ・The vegetation of forest landscape in Tiantong National Forest Park. (Y. Nakamura, Y. Murakami, K. Kawano, Y.-C. Song, X. Wang and F. Cai)
- ・Scrub and grassland vegetation in rural landscape area of Tiantong National Forest Park. (Y. Murakami, Y. Nakamura and Y.-C. Song)

特集 . 遠山三樹夫先生追悼

- ・遠山三樹夫横浜国立大学名誉教授を悼む(宮脇 昭)

- ・遠山三樹夫教授を偲んで（松田忠男）
- ・北大にとっての遠山さん（伊藤浩司）
- ・Forest distribution of Yokohama city in the early Meiji Era read from original survey drawing for Jinsoku-zu. (H. Harada, A. Harada and K. Hotta)
- ・箱根仙石原におけるススキ群落の埋土種子集団（安島美穂・浜田直美）
- ・河川環境評価手法に関する基礎的研究 - 河川水辺の国勢調査・陸上昆虫類での問題点 - （巢瀬司・佐々木 寧）
- ・丹沢のブナ林、その現状と将来（島野光司）
- ・植生保護柵の設置が林床植生の種組成に及ぼす初期の効果について - 丹沢山ブナ林域の例 - （矢ヶ崎朋樹・星直斗・原田修平）
- ・マングローブ二次林の発達過程とその立地（石原修一・持田幸良）
- ・八ヶ岳山塊の亜高山帯針葉樹林構成種の植物地理学的特性（田中徳久）
- ・An ecological study of Melaleuca communities in littoral swamps (K. Suzuki)

研究会記録

第51回 北東アジアの沿岸地域における森林分布と境界の決定機構(沖津 進)/第58回 植物の物質生産再生過程の解析とその生態学的意義(横井洋太)/第59回 カワラノギクの保全生物学的研究(倉本 宣)

第7巻第1号(2000年12月30日発行)

原著論文

- ・土壌動物からみた環境保全林の自然回復糧(唐沢重孝・原田 洋)
- ・都市近郊における孤立林の植生タイプと越冬期鳥類相との関係(阿部聖哉)
- ・Phytosociological studies on the distribution of the secondary forests of *Quercus serrata* in Kanto region, central Japan. (S. Suzuki)
- ・日本の丘陵地生マント群落(村上雄秀)
- ・環境保全林における生育環境と樹木の生育挙動(目黒伸一)
- ・Drastic recovery of *Melaleuca*-dominant scrub after a severe fire: a three-year period study in a degraded peat swamp, Thailand. (M. Tomita, Y. Hirabuki, K. Suzuki, K. Hara, N. Aida and Y. Araki)
- ・河川環境調査に関わる植生情報の問題点とその検討 - 「河川水辺の国勢調査」植生調査データについて - (矢ヶ崎朋樹・佐々木 寧)
- ・Measures for establishing the agreement on old growth forest conservation The Case of The Indonesian Biodiversity Conservation Project- (M. Watanabe)

第8巻第1号(2001年12月30日発行)

原著論文

- ・河川敷の絶滅危惧種タコノアシの発芽および成長特性とその保全手法に関する研究(佐々木 寧・岸良武志・前田 敬・大石哲也)

- ・ A phytosociological study of littoral peat swamps of North Stradbroke Island, Australia. (K. Suzuki)
- ・ 東扇島環境保全林の煤塵付着機能について (小西祐介・原田 洋・目黒伸一)
- ・ An study on ecological modernization (H. T. H. Kobayashi)
- ・ Forest edge-interior structure of satoyama pine forest on Korea and Japan. (S.-K. Hong)
- ・ The restoration of the native forest in Nagano City (Y. Takano)
- ・ 横浜市内の遊水地の植生概況 (村上雄秀)

短報

- ・ 石川県加賀海岸における海岸断崖地の湿生草原群落 (鈴木伸一・矢ヶ崎朋樹)

研究ノート

- ・ 中国天目山山麓の農業形態 (佐々木 寧)

第9巻第1号 (2002年12月30日発行)

原著論文

- ・ コナラ林との比較におけるミズナラ林の植物社会学的研究 (鈴木伸一)
- ・ 高知県大川村の地域植生誌的研究 (村上雄秀・中村幸人・鈴木伸一)
- ・ 生態環境資源のメッシュ法解析とその統合的沿岸域管理への有効性 - 生態保全価値空間の抽出の事例 - (矢ヶ崎朋樹・鈴木邦雄)
- ・ 天然林におけるブナの結実個体が種子の空間分布に与える影響 (富田瑞樹・武石晃正・平吹喜彦・鈴木邦雄)
- ・ 土壤動物からみた環境保全林の自然性の評価 (境野光寿・原田 洋・斐 泰雄)
- ・ Macrodynamic growth behavior of reforestation in Southeast Asia after the initial 10 years. (S. Meguro)

研究会記録

- ・ ブナ林は亜寒帯針葉樹林へ移行しているのだろうか (石川幸男)

第10巻第1号 (2003年12月30日発行)

原著論文

- ・ Responses of juvenile trees to treefall gaps and changes in microclimates in the Amazonian dense lowland rain forest. (A. Tsuchiya, S. Tanaka and H. Niro)
- ・ 環境保全林における落葉の分解 (木村紀之・原田 洋)
- ・ マングローブ樹林の幼個体および成木段階における分布の比較と環境要因との関係 (緒方淳二・富田瑞樹・鈴木邦雄)
- ・ 断片緑地の種組成調査に基づく市街地の潜在自然植生の推定 (矢ヶ崎朋樹・村上雄秀・林 寿則)
- ・ 遷移度を用いた地域植生の序列化の試み 福井県武生市西部の植生をケース・スタディーとして (林 寿則・村上雄秀・矢ヶ崎朋樹)
- ・ 横浜市近郊における数種の樹木の力学的特性と種組成 (目黒伸一・長谷川直人・辻 毅一)

国際生態学センター設立10周年特集：日本との比較に基づく中国華東地域の植生

- A phytosociological study on the deciduous oak forests in east China (S. Suzuki, Y. Nakamura, K. Kawano, X. Wang and L. Da)
- Pine forests of eastern China in comparizon with western Japan (S. Suzuki, S. Nakamura, Y. Murakami and Y.-C. Song)
- Several coastal herbaceous communities that were observed on the coast of East China Sea, eastern China. (S. Suzuki, Y. Nakamura and Y. Murakami)
- Mantle communities in eastern China. (Y. Murakami, Y. Nakamura and Y.-C. Song)

(2) ニューズレター

第 1 号 (1992 年 12 月 14 日) / 第 2 号 (1993 年 2 月 13 日) / 第 3 号 (1994 年 1 月 20 日)
 第 4 号 (1994 年 4 月 20 日) / 第 5 号 (1994 年 8 月 10 日) / 第 6 号 (1994 年 10 月 20 日)
 第 7 号 (1995 年 1 月 20 日) / 第 8 号 (1995 年 4 月 20 日) / 第 9 号 (1995 年 7 月 20 日)
 第 10 号 (1995 年 10 月 20 日) / 第 11 号 (1996 年 1 月 20 日) / 第 12 号 (1996 年 4 月 20 日)
 第 13 号 (1996 年 7 月 20 日) / 第 14 号 (1996 年 10 月 20 日) / 第 15 号 (1997 年 1 月 20 日)
 第 16 号 (1997 年 4 月 20 日) / 第 17 号 (1997 年 7 月 20 日) / 第 18 号 (1997 年 10 月 20 日)
 第 19 号 (1998 年 1 月 20 日) / 第 20 号 (1998 年 4 月 20 日) / 第 21 号 (1998 年 7 月 21 日)
 第 22 号 (1998 年 10 月 21 日) / 第 23 号 (1999 年 1 月 20 日) / 第 24 号 (1999 年 4 月 20 日)
 第 25 号 (1999 年 7 月 20 日) / 第 26 号 (1999 年 10 月 20 日) / 第 27 号 (2000 年 1 月 20 日)
 第 28 号 (2000 年 4 月 20 日) / 第 29 号 (2000 年 7 月 20 日) / 第 30 号 (2000 年 10 月 20 日)
 第 31 号 (2001 年 1 月 20 日) / 第 32 号 (2001 年 4 月 20 日) / 第 33 号 (2001 年 7 月 20 日)
 第 34 号 (2001 年 10 月 20 日) / 第 35 号 (2002 年 1 月 20 日) / 第 36 号 (2002 年 4 月 20 日)
 第 37 号 (2002 年 7 月 20 日) / 第 38 号 (2002 年 10 月 20 日) / 第 39 号 (2003 年 1 月 20 日)
 第 40 号 (2003 年 4 月 20 日) / 第 41 号 (2003 年 7 月 20 日) / 第 42 号 (2003 年 10 月 20 日)
 第 43 号 (2004 年 1 月 20 日) / 第 44 号 (2004 年 4 月 20 日) / 第 45 号 (2004 年 7 月 20 日)
 第 46 号 (2004 年 10 月 20 日)

(3) 研究報告書

国際生態学センター報告第 1 号 (1995) 環境保全林形成のための理論と実践 .

国際生態学センター報告第 2 号 (1996) Theory and Practice Formation for Environmental Protection Forest - .

国際生態学センター報告第 3 号 (1996) JISE 国際シンポジウム「21 世紀に向けた緑の再生と創造」報告書 .

国際生態学センター報告第 4 号 (1996) 21 世紀の河川を考える .

国際生態学センター報告第 5 号 (1998) 環境保全林の創造-1991 環境保全林シンポジウムの記録- .

日本 MAB 計画国内委員会 (編) (1999) 日本ユネスコ / MAB 生物圏保存地域カタログ .

国際生態学センター (編) (2001) よこすかの植生 -みどりの調査と活用のための提案- . 横須賀市 .

国際生態学センター (編) (2002) 加賀市の植生 -緑を基礎とした環境創造・整備のための植生生態学的提言- . 加賀市 .

異動したスタッフを含め、JISE 発足以来在籍した研究員の氏名と在籍期間中に発表した著作および活動について収録する。

宮脇 昭 (MIYAWAKI, Akira) 研究所長 理学博士 1993.10～

(1) 原著論文・調査報告書等

- Miyawaki, A. (1996) Restroration of biobiversity in urban and peri-urban environments with native forests, *Biodiversity, science and development*, 558-565.
- Meguro, S. & A. Miyawaki, (1997) A study of initial growth behavior of planted Dipterocarpaceae trees for restoration of tropical rain forests in Borneo/ Malaysia. *Tropical Ecology*. 38(2): 237-245.
- Miyawaki, A. & S. Meguro (1998) Restroration of tropical rain forests in Sarawak, Malaysia. In: *Studies in plant ecology, vegetation science in retrospect and perpective*, Uppsala, 20,60.
- Miyawaki, A. & X. Bai (1998) Forest restration experiment by native trees in Southeast China. *Reseached related the UNESCO S MAB programme in Japan 1997-1998*. p. 1-8.
- Miyawaki, A. (1998) Restoration of urban green environments based on the theories of vegetation ecology. *Ecological Engineering* 11: 157-165.
- Miyawaki, A. (1999) Creative Ecology -Restoration of native forests by native trees -. *Plant Biotechnology*. 16(1): 15-25.
- Miyawaki, A. & S. Meguro (2000) Planting experiments for the restoration of tropical rain forest in Southeast Asia and a comparison with laurel forest at Tokyo Bay. *Proceedings IAVS Symposium*, pp. 249-250.
- 宮脇 昭 (2001) 植生の再生と回復に冠する植生生態学的一考察. *植生情報* .(5): 55-62 .
- 宮脇 昭 (2001) はじめに .「よこすかの植生-みどりの調査と活用のための提案-」(国際生態学センター編), pp. 3-5. 横須賀市 .
- Suzuki, S. & A. Miyawaki (2001) The forest vegetation in the lower part of the Fagetea crenatae region in Japan - On *Fagus japonica* forests- *Phytocoenologia* 31 (3): 427-443. Berlin.
- Miyawaki, A. (2001) Construction of antidisaster, environment protection forests based on the vegetation ecology. *Abstracts of Asem Symposium on Forest Conservation & Sustainable Development*.68-69. Guiyang, Guizhou, China.
- 宮脇 昭 (2002) はじめに .「加賀市の植生 - 緑を基礎とした環境創造・整備のための植生生態学的提言-」(国際生態学センター編), pp. 1-2; 加賀市の緑を基本とした環境の保全・創造のための植生生態学的提言 .(同), pp. 106-148 . 加賀市 .
- Miyawaki, A. & S. Meguro (2003) Meaning of phytosociological species combination at lowland

tropical rainforests in Malaysia. Proceedings of 46th International Association of Vegetation Science, A8. Naples, Italy.

Miyawaki, A. (2004) Restoration of living environment based on vegetation ecology: Theory and practice. Ecological Research 19: 83-90.

Miyawaki, A. & S. Abe (2004) Public awareness generation for the reforestation in Amazon tropical lowland region. Tropical Ecology 45(1): 59-65.

Miyawaki A., & S. Meguro (2004) Vegetation of lowland tropical forest and ecological characteristics of the component trees at estuary region in Amazon. Proceedings of 47th International Association of Vegetation Science. Honolulu, USA.

(2) 著書

宮脇 昭 (1997) 緑環境と植生学 - 鎮守の森を地球の森に - . 244 pp . NTT出版 .

宮脇 昭 (1999) 森よ生き返れ . 178 pp . 大日本図書 .

宮脇 昭 (2000) 鎮守の森 . 159 pp . 新潮社 .

宮脇 昭・阿部聖哉(共著)(2003)佐野浩 監修 . 遺伝子組換え植物の光と影 . 生態系と人間 p. 3-22. 学会出版センター .

宮脇 昭 (2004) 潜在自然植生の把握作業から植林の未来へ - 宮脇理論の成果から . 科学, 74(1): 298-305 . 岩波書店 .

宮脇 昭・毎日新聞「あしたの森」取材班 (2004) 明日を植える 地球にいのちの森を . 287 pp . 毎日新聞社 .

宮脇 昭 (2005) いのちを守るドングリの森 . 190 pp . 集英社新書 . 集英社 .

(3) 普及的著作等

宮脇 昭 (1998) 日中植生比較の重要性 . 日本生態学会関東地区会報, 49: 1-2.

宮脇 昭 (1999) 森をつくる . 都道府県展望, 488: 4-7. 全国知事会 .

宮脇 昭 (1999) 潜在自然植生と森づくり . 明日へのJCCA, 203: 30-33.

宮脇 昭 (1999) ローカルな努力でグローバルな環境保全を . Infodia, 144: 1.

宮脇 昭 (1999) いのちを育てる環境教育 . きょういくの風, 5: 6-17. 編集 . 教育者教育研究所 .

宮脇 昭 (1999) 植物と人間 - 生物社会のバランス - . 創造経営, 403: 4-7.

宮脇 昭 (2000) 生態環境保全林の創造 . 林業経済, 617: 9-19. 東京 .

宮脇 昭 (2001) 鎮守の森を世界の森に . 森と宗教, 214-253. 代々木の杜 80 フォーラム . Vol.1-8.

宮脇 昭 (2001) 人間と自然の共生 - 鎮守の森の再生 . 真理と創造, 41: 38-43. 中央学術研究所 .

宮脇 昭 (2002) 斜面に森をよみがえらせる . 緑と生態, 9: 6-7. 緑と生態研究会 .

宮脇 昭 (2003) 21世紀の鎮守の森の創造 . 緑と生態, 10: 16-17. 緑と生態研究会 .

宮脇 昭 (2003) ふるさとの森を創る . 社叢学会研究 . 創刊号: 53-57.

宮脇 昭 (2003) その土地が本来もっている潜在自然植生に着目して、正しい植林を！ . 労働レーダ

一, 27(4): 12-15. 労働問題研究会議 .

宮脇 昭 (2004) ふるさとの木によるふるさとの森づくり . Eco Pure, 50: 6-11.

宮脇 昭 (2004) 日本の「鎮守の森」を守れ . 武道, 448 (3): 4-5.

(4) 学会発表等

Miyawaki A. & S. Meguro (2003) Meaning of phytosociological species combinations in lowland tropical rainforests in Malaysia. Abstracts of 46 th Symposium of the International Association for Vegetation Science: 8-14 June 2003, Napoli, Italy. Water Resources and Vegetation

Miyawaki, A. (2001) Philosophy and practice of ecology in japan in special regards to forest restoration. 86 th. Annual meeting of the Ecological Society of America. Abstracts. p.27. Wisconsin. Aug. 5-10, 2001. USA.

Miyawaki, A. & S. Meguro (2001) Reconstruction of degraded tropical rainforests in Sarawak, Borneo and its significance. Abstracts. 44th IAVS symposium 29 July-4 August 2001. Vegetation and Ecosystem Functions. Munich, Germany.

Miyawaki, A. (2002) Ecological restoration and creation of living environments - Principles and applications. Plenary lecture, INTECOL, "Ecology in a Changing World". p.26. Seoul, Korea. Aug. 11-18, 2002.

Miyawaki A. & S. Abe (2002) A reforestation project of lowland forest in Brazilian Amazon-Growth behavior in ten years. Abstracts of 45 th Symposium of IAVS: 3-8 march 2002, Porto Alegre. Brazil, p.144.

(5) 受賞

平成 7 年(1995)ドイツ・チュクセン賞(Reinhold Tuexen Prize)

平成 8 年(1996)日経地球環境技術大賞

平成 9 年(1997)日刊工業新聞技術・科学図書文化賞「緑環境と植生学」

平成 12 年(2000)長野県知事表彰

平成 12 年(2000)勲二等瑞宝章

平成 14 年(2002)神奈川イメージアップ大賞

平成 14 年(2002)日本生活文化賞

平成 15 年 3 月(2003) 第 1 回日本生態学会功労賞

(6) 主な社会的活動

平成 8 年～平成 11 年(1996 ～ 99) 国際生態学会 (INTECOL) 会長 .

平成 9 年 (1997) ドイツハノーバー大学より名誉理学博士号 .

平成 11 年～ (1999.4 ～) (財)日本ナショナルトラスト観光資源専門委員会 委員長 .

平成 12 年～ (2000.6 ～) 華東師範大学顧問教授 .

(1) 原著論文・調査報告書等

- 村上雄秀 (1994) 秩父山地のウラジロモミ - コメツガ林について. 生態環境研究, 1: 1-13.
- Murakami, Y. & A. Miyawaki (1995) Heliophilic mantle communities in Japan. *Phytocoenologia*, 25: 107-152.
- 村上雄秀・小室武利 (1995) 環境保全林植栽の方法. 国際生態学センター報告, 1: 53-66.
- 村上雄秀 (1995) 横浜市の河川源流域における水辺植生() - 市全域調査報告 - . 環境保全資料(横浜市環境保全局), 178: 237-264.
- 村上雄秀・福嶋 悟 (1995) 横浜市内河川の沈水植物(第4報). 環境保全資料(横浜市環境保全局), 178: 265-270.
- Murakami, Y., S. Meguro, M. A. Alias & H. O. Ismawi (1996) Woody vegetation in Bintulu and Similajau National Park, Malaysia. *Eco-Habitat*, 3: 1-17.
- 村上雄秀・中村幸人 (1997) 丹沢山地における動的・土地的植生について. 丹沢大山自然環境総合調査報告書(神奈川県環境部), 122-167.
- 中村幸人・村上雄秀・鈴木邦雄 (1997) 丹沢山地の景観区分とその動態的研究 . 丹沢大山自然環境総合調査報告書(神奈川県環境部), 168-174.
- 村上雄秀 (1998) 横浜市内の河辺植生(第3報) - 1997年度大河川調査 - . 環境保全資料(横浜市環境保全局), 186: 157-186.
- 村上雄秀・福嶋 悟 (1998) 横浜市内河川の沈水植物(第5報). 環境保全資料(横浜市環境保全局), 186: 187-191.
- Murakami, Y., Y. Nakamura & Y.-C. Song (1999) Shrub and herbaceous vegetation in rural landscape area of Tiangtong National Park, China. *Eco-Habitat*, 6: 45-63.
- Nakamura, Y., Y. Murakami, Y.-C. Song & X. Wang (1999) Landscape and its ecological division in Tiantong National Forest Park. *Eco-Habitat*, 6: 65-72.
- Nakamura, Y., Y. Murakami, K. Kawano, Y.-C. Song, X. Wang & F. CAI (1999) The vegetation of forest landscape area in Tiangtong National Forest Park. *Eco-Habitat*, 6: 35-44.
- 村上雄秀 (2000) 日本の丘陵地生マント群落. 生態環境研究, 7: 25-71.
- 武井幸久・村上雄秀・坂田正宏・加藤瑞樹 (2000) 潜在自然植生の概念に基づいた法面緑化について. 福井工業専門学校研究紀要 自然科学・工学, 34: 55-67.
- 村上雄秀 (2001) 調査結果. 「横須賀の植生-みどりの調査と活用のための提案-」(国際生態学センター編), pp. 36-39, 45-48, 51-66. 横須賀市.
- 村上雄秀 (2001) 横浜市内の遊水池の植生概況. 生態環境研究, 8: 65-74.
- 村上雄秀・矢ヶ崎朋樹 (2001) 横浜市内の河辺植生(第4報) - 1999年度中小河川調査 - . 環境保全資料(横浜市環境保全局), 190: 183-210.
- 村上雄秀・福嶋 悟 (2001) 横浜市内河川の沈水植物(第6報). 環境保全資料(横浜市環境保全局), 190: 211-216.

- 村上雄秀 (2002) 調査結果。「加賀市の植生 - 緑を基礎とした環境創造・整備のための植生生態学的提言 -」(国際生態学センター編), pp. 38-42, 51-69, 84-86. 加賀市.
- 坂田正宏・武井幸久・村上雄秀・加藤瑞樹 (2002) 潜在自然植生概念に基づく既存盛土のり面の緑化の研究. 地域技術(福井県雪対策・建設技術研究所年報), 15: 68-71.
- 坂田正宏・村上雄秀 (2002) 自然環境の復元を促進するための吹付緑化工の研究. 地域技術(福井県雪対策・建設技術研究所年報), 15: 72-79.
- 村上雄秀・中村幸人・鈴木伸一 (2002) 高知県大川村の地域植生誌的研究. 生態環境研究, 9: 25-84.
- 坂田正宏・村上雄秀 (2003) 中小河川中上流域の生態系復元計画. 多自然研究, 92: 3-11.
- 坂田正宏・村上雄秀 (2003) 植栽工における効率的な木材チップマルチング厚の研究. 地域技術(福井県雪対策・建設技術研究所年報), 16: 61-62.
- 坂田正宏・村上雄秀 (2003) 現地表土と木材生チップを利用した吹付緑化工の研究. 地域技術(福井県雪対策・建設技術研究所年報), 16: 63-67.
- 坂田正宏・村上雄秀 (2003) 中小河川中上流域の生態系復元工法. 地域技術(福井県雪対策・建設技術研究所年報), 16: 129-135.
- 矢ヶ崎朋樹・村上雄秀・林 寿則 (2003) 断片緑地の種組成調査に基づく市街地の潜在自然植生の推定. 生態環境研究, 10(1): 37-55.
- 林 寿則・村上雄秀・矢ヶ崎朋樹 (2003) 遷移度を用いた地域植生の序列化の試み 福井県武生市西部の植生をケース・スタディーとして-. 生態環境研究, 10(1): 57-76.
- Murakami, Y., Y. Nakamura & Y.-C. Song (2003) Mantle communities in eastern China. *Eco-Habitat*, 10: 123-145.
- Suzuki, S., Y. Nakamura, Y. Murakami & Y. Song (2003) Pine forests of eastern China in comparison with western Japan. *Eco-Habitat*, 10: 105-115.
- Suzuki, S., Y. Nakamura, Y. Murakami (2003) Several coastal herbaceous communities that were observed on the coast of East China Sea, eastern China. *Eco-Habitat*, 10: 117-121.
- 村上雄秀・矢ヶ崎朋樹 (2004) 横浜市の河川源流域における水辺植生(III)-2002年度鶴見川水系調査報告-. 横浜の川と海の生物(河川編), 10: 127-150.
- 村上雄秀・福嶋 悟 (2004) 横浜市内河川の沈水植物(第7報). 横浜の川と海の生物(河川編), 10: 151-156.

(2) 著書

- 村上雄秀・遠山三樹夫(編)(1998)環境保全林の創造. 国際生態学センター報告, 5. 130 pp..
- 村上雄秀 (1998) 生態学. 「岩波理化学辞典 第5版」(長倉三郎ほか編), p.725. 岩波書店.

(3) 普及的著作等

- 村上雄秀 (1994) やさしい植物生態学第1回「植物のかたち」. 月刊メディア砂防, 121: 22-23. 砂防広報センター.
- 村上雄秀 (1994) やさしい植物生態学第2回「植物のすみか」. 月刊メディア砂防, 122: 24-25. 砂防広報センター.

- 村上雄秀 (1994) やさしい植物生態学第3回「植物のすみわけ」. 月刊メディア砂防, 123: 22-23. 砂防広報センター.
- 村上雄秀 (1994) やさしい植物生態学第4回「植物群落のうつりかわり」. 月刊メディア砂防, 124: 22-23. 砂防広報センター.
- 村上雄秀 (1994) やさしい植物生態学第5回「植物群落の分類」. 月刊メディア砂防, 125: 22-23. 砂防広報センター.
- 村上雄秀 (1994) やさしい植物生態学第6回「帰化植物」. 月刊メディア砂防, 126: 20-21. 砂防広報センター.
- 村上雄秀 (1994) やさしい植物生態学第7回「河辺の植物」. 月刊メディア砂防, 127: 20-21. 砂防広報センター.
- 村上雄秀 (1994) やさしい植物生態学第8回「崩壊地の植物」. 月刊メディア砂防, 128: 16-17. 砂防広報センター.
- 村上雄秀 (1994) やさしい植物生態学第9回「人里の植物」. 月刊メディア砂防, 129: 18-19. 砂防広報センター.
- 村上雄秀 (1995) やさしい植物生態学第10回「日本の常緑広葉樹林」. 月刊メディア砂防, 130: 22-23. 砂防広報センター.
- 村上雄秀 (1995) やさしい植物生態学第11回「日本の夏緑広葉樹林」. 月刊メディア砂防, 131: 18-19. 砂防広報センター.
- 村上雄秀 (1995) やさしい植物生態学第12回「日本の常緑針葉樹林」. 月刊メディア砂防, 132: 22-23. 砂防広報センター.

(4) 学会発表等

- 村上雄秀 (1994) マント群落における立地環境と分布. 日本生態学会第41回大会.
- 村上雄秀 (1995) マント群落における3生活形の生態的意義. 日本生態学会第42回大会.
- 村上雄秀 (1996) 都市河川の水辺植生とその分布特性. 日本生態学会第43回大会.
- 村上雄秀・中村幸人・鈴木邦雄 (1997). 丹沢山地における非帯状植生について. 日本生態学会第41回大会.
- 村上雄秀・中村幸人・宋 永昌 (1998) 中国浙江省天童寺周辺における非帯状植生について. 日本生態学会第45回大会.
- 中村幸人, 河野耕三・村上雄秀・宋 永昌・王 希華 (1998) 天童寺(中国)の森林植生と土地利用. 日本生態学会第45回大会.
- 村上雄秀・中村幸人・宋 永昌 (1999) 中国浙江省天目山周辺における非帯状植生について. 日本生態学会第47回大会.
- 中村幸人・村上雄秀・河野耕三・宋 永昌 (1999) 天目山(中国)の夏緑広葉樹林の植物社会学的研究. 日本生態学会第46回大会.
- 鈴木伸一・中村幸人・村上雄秀・宋 永昌 (2000) 中国・華東地域の夏緑二次林植生について. 日本生態学会第47回大会.

村上雄秀・中村幸人・宮脇 昭・宋 永昌 (2000) 中国華東地域の林縁性低木群落について. 日本生態学会第 47 回大会.

村上雄秀・中村幸人 (2003) 中国華東地域の草本植物群落の類型. 日本生態学会第 50 回大会.

村上雄秀・林 寿則・矢ヶ崎朋樹 (2004) 春植物群落の種組成的類型化について. 日本生態学会第 51 回大会.

(5) 主な社会的活動

- ・ 横浜国立大学非常勤講師 (1993 年度 ~)
- ・ 法政大学非常勤講師 (1996 年度 ~)
- ・ 福井県雪対策・建設技術研究所客員研究員 (2001 年度 ~)
- ・ M A B 計画委員会委員 (2002 年度 ~)
- ・ 環境省第 6 回自然環境基礎調査 (植生調査) 凡例検討部会委員 (2003 年度 ~)
- ・ 植生学会運営委員会委員 (1996 ~ 1997 年度)
- ・ 植生学会企画委員会委員 (1999 年度 ~)
- ・ 福井県のり面緑化マニュアル検討会メンバー (2003 ~ 2004 年度)
- ・ 横浜市源流域水環境基礎調査検討会委員 (2004 年度)
- ・ 横浜市生物指標見直し検討会メンバー (2004 年度)

鈴木伸一 (SUZUKI, Shin-ichi) 主任研究員 博士 (学術) 1998.4 ~

(1) 原著論文・調査報告書等

鈴木伸一 (1998) 赤城山および三ツ峠のジゾウカンバ林について. 生態環境研究, 5: 75-81.

鈴木伸一・片野光一・吉井広始・須藤志成幸・大森武宏 (1999) 尾瀬 (群馬県側) における人為的自然
改変立地に関する植生動態の調査・研究 (). 尾瀬の自然保護, 22: 25-49. 群馬県自然環境課.

吉井広始・鈴木伸一・片野光一・大森武宏・須永智・須藤志成幸・菊地慶四郎 (1999) 小至仏山登山
道沿いのオセソウ群落の動態について (1 報). 尾瀬の自然保護, 22: 50-56. 群馬県自然環境課.

鈴木伸一 (1999) 関東地方北部のブナ林に関する植物社会学的研究. Actinia, 12: 123-133.

鈴木伸一 (2000) 良好な自然環境を有する地域学術調査報告書 (XXVI). 高田川上流部, 79-98; 斧尻
与作沢原頭部地域, 125-128. 群馬県自然保護課.

Suzuki, S. (2000) Phytosociological studies on the distribution of the secondary forests of
Quercus serrata in Kanto region, central Japan. Eco-Habitat, 7: 1-9.

鈴木伸一 (2001) 調査方法. 「よこすかの植生-みどりの調査と活用のための提案-」 (国際生態学セ
ンター編), pp. 9-14; 植生概況. (同), pp. 15-18; 調査結果. (同), pp. 23-30, 33, 85-112;
活用のための提案. (同), pp. 122-165. 植生図 (2 万分の 1). (同), 付録. 横須賀市.

Suzuki, S. & A. Miyawaki (2001) The forest vegetation in the lower part of the Fagetea crenatae
region in Japan On *Fagus japonica* forests-. Phytocoenologia, 31(3): 427-443. Berlin-
Stuttgart.

- 鈴木伸一 (2001) 日本におけるコナラ林の群落体系. 植生学会誌, 18(2): 61-74.
- 鈴木伸一 (2001) セン沢流域の植生. 良好な自然環境を有する地域学術調査報告書 (XXVII), 157-161. 群馬県自然環境課.
- 鈴木伸一・片野光一・大森威宏 (2002) 植生. 第二次奥利根地域学術調査報告書, pp. 105-162. 群馬県自然環境課.
- 鈴木伸一 (2002) 調査地の概況, 調査方法. 「加賀市の植生 - 緑を基礎とした環境創造・整備のための植生生態学的提言 -」 (国際生態学センター編), pp.3-12; 調査結果, (同), pp. 13-32, 35-38, 74-75, 87-102; 加賀市の緑を基本とした環境の保全・創造のための植生生態学的提言. (同), pp. 106-148. 加賀市現存植生図、加賀市潜在自然植生図. (同), 付録. 加賀市.
- 吉井広始・鈴木伸一・片野光一・大森威宏 (2002) 小至仏山登山道沿いのオゼソウ群落の動態について (第2報). 尾瀬の自然保護, 22: 16-25. 群馬県自然環境課.
- 鈴木伸一・大森威宏 (2002) 尾瀬周辺山地-伝之丞沢の植生と植物相-. 良好な自然環境を有する地域学術調査報告書 (XXVIII), pp.237-250. 群馬県自然環境課.
- 鈴木伸一・矢ヶ崎朋樹 (2002) 石川県加賀海岸における海岸断崖地の湿生草原群落. 生態環境研究, 8(1): 75-80.
- 鈴木伸一 (2002) コナラ林との比較におけるミズナラ林の植物社会学的研究. 生態環境研究, 9: 1-23.
- 村上雄秀・中村幸人・鈴木伸一 (2002) 高知県大川村の地域植生誌的研究. 生態環境研究, 9: 25-84.
- 福島 司・小暮明子・吉川正人・井上香世子・鈴木伸一・星野義延・加藤誠・岡崎正規 (2003) 玉原湿原の植生管理に関する調査報告書-10年間の植生変化に関する追跡調査-. 森林文化協会.
- 大森威宏・鈴木伸一 (2003) 群馬県南西部山間地域におけるイヌノフグリの分布と出現群落の群落学的解析. 群馬県立自然史博物館研究報告, 7: 77-82.
- 吉井広始・鈴木伸一・片野光一・大森威宏 (2003) 小至仏山登山道沿いのオゼソウ群落の動態について (第3報). 尾瀬の自然保護, 26: 16-25. 群馬県自然環境課.
- 吉井広始・鈴木伸一・片野光一・大森威宏 (2003) 尾瀬の植生と植物相 X -アヤメ平のフロラ-. 尾瀬の自然保護, 26: 87-103. 群馬県自然環境課.
- Suzuki, S., Y. Nakamura, K. Kawano, X. Wang & L. Da (2003) A phytosociological study on the deciduous oak forests in eastern China. *Ech-Habitat*, 10: 85-103.
- Suzuki, S., Y. Nakamura, Y. Murakami & Y. Song (2003) Pine forests of eastern China in comparison with western Japan. *Eco-Habitat*, 10: 105-115.
- Suzuki, S., Y. Nakamura, Y. Murakami (2003) Several coastal herbaceous communities that were observed on the coast of East China Sea, eastern China. *Echo-Habitat*, 10: 117-121.
- 鈴木伸一・吉井広始・片野光一・大森威宏 (2004) 尾瀬の植生と植物相 XI -アヤメ平のフロラ-. 尾瀬の自然保護, 27: 66-95. 群馬県自然環境課.

(2) 著書

- 鈴木伸一 (2000) 「群馬の自然」 (分担執筆). 群馬の自然研究会編. 群馬県.
- 鈴木伸一 (2001) 「群馬県の絶滅のおそれのある野生生物 植物編」 (分担執筆). 群馬県.
- 鈴木伸一 (印刷中) 植物群落のとらえ方. 「植物生態学」 (沖津 進編), 朝倉書店.

(3) 普及的著作等

- 鈴木伸一 (1999) 里山の生態系の構造と動態および管理方法の研究 . JISE ニュースレター , 25 : 1-3 .
(財)国際生態学センター .
- 鈴木伸一 (2003) 尾瀬の植生保護と移入植物 . 春夏秋冬 , 29 : 31-36 .

(4) 学会発表等

- 鈴木伸一 (1998) イヌシデ - コナラ群団について . 植生学会第3回大会講演要旨集 , S5 . 横浜 .
- 鈴木伸一 (1999) 日本のコナラ二次林の分布と種組成 . 第46回日本生態学会大会講演要旨集 , P1-007 .
松本 .
- 鈴木伸一・片野光一・吉井広始・大森威宏・須藤志成幸 (1999) 利根川源流域の多雪地植生について .
植生学会第4回大会講演要旨集 , A03 . 旭川 .
- 鈴木伸一・中村幸人・村上雄秀・宋永昌 (2000) 中国・華東地域の夏緑二次林植生について . 第47
回日本生態学会大会講演要旨集 , A122 . 東広島 .
- 鈴木伸一 (2001) 里山林は日本と中国東部で何が違うか . 第48回日本生態学会大会自由集会 , M7 ア
ジア・太平洋地域の植生の分布と分化 . 熊本 .
- 鈴木伸一 (2002) 日本の夏緑広葉樹二次林の群落体系について . 第49回日本生態学会大会講演要旨
集 , 0211 . 仙台 .
- 鈴木伸一 (2002) 利根川源流域周辺の雪田植生 - 特にイワイチョウ群団について - . 植生学会第7回大
会講演要旨集 , B13 .
- 小暮明子・福嶋司・吉川正人・加藤誠・星野義延・鈴木伸一 (2002) 群馬県玉原湿原における植生分
布と地下水状況の関係について . 植生学会第7回大会講演要旨集 , B15 .
- Suzuki, S. (2002) Comparative study on the summer-green broad-leaved forests in the warm-
temperate zone between Japan and China, especially on the Quercus forest. Proceedings of
the INTECOL international congress of ecology (at COEX Convention Center, Seoul, Korea)
- 鈴木伸一 (2003) 中国揚子江下流域周辺地域の *Quercus* を中心とした夏緑広葉樹林と西日本のコナラ
林との比較 . 第50回日本生態学会大会講演要旨集 , PB2-064 . つくば .
- 村上雄秀・矢ヶ崎朋樹・鈴木伸一・阿部聖哉 (2003) 都市河川における河辺植生の回復に関する研究
- 福井市周辺の河辺植生類型 - . 植生学会第8回大会講演要旨集 , p. 39 . 熊谷 .
- Suzuki, S. & A. Miyawaki (2004) Indigenous species against exotic species in ecosystem
restoration in Japan. Proceedings of the Beijing international symposium on biological
invasions - Species exchanges between eastern Asia and North America: Threats to environment
and economy - . The institute of botany, Chinese academy of sciences (CAS), China and the
Sino-Ecologists club overseas (SINO-ECO), USA. Beijing, China.
- 鈴木伸一 (2004) 横須賀市における帰化植物に関する植物社会学的研究 . 第51回日本生態学
会大会講演要旨集 , P2-145 . 釧路 .

(5) 主な社会的活動

- ・群馬県自然環境調査会会員（1989年度～）
- ・建設省関東地方建設局川古ダム環境調査懇談会委員（1992～2000年度）
- ・群馬県尾瀬保護専門委員（1993年度～）
- ・「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 8 植物（維管束植物）(環境庁編)」絶滅危惧植物調査委員（1992～2000年度）
- ・「群馬県の絶滅のおそれのある野生生物 植物編」検討委員（1997年度～）
- ・環境省第6回自然環境基礎調査（植生調査）ブロック調査会議検討委員（2000年度～）
- ・作新学院大学非常勤講師（環境論，生態学担当）(2002年度～)
- ・ピオトープアドバイザー資格認定講習会（日本ピオトープ協会）講師（2003年度～）
- ・横浜市立緑園西小学校社会人講師（2003年度）
- ・環境省第6回自然環境基礎調査（植生調査）凡例検討部会委員（2004年度～）
- ・文部科学省サイエンス・パートナーシップ・プログラム（SPP）講師（尾瀬高等学校）(2004年度)
- ・植生調査セミナー（日本植木協会）講師（2004年度～）

(6) 主な調査活動

- ・尾瀬地域の植生・植物相調査（1991年度～），群馬県．
- ・利根川源流地域の植生・植物相調査（1996年度～），群馬県．
- ・神奈川県横須賀市植生調査（1998～2000年度），横須賀市．
- ・中国華東地方植生調査（1998～2000年度），文部省科研費．
- ・石川県加賀市植生調査（1999～2001年度），加賀市．
- ・白山地域の植生調査（2003年度～），文部省科研費．

磯谷達宏（ISOGAI, Tatsuhiro）主任研究員 博士（農学） 1993.4～1998.3

(1) 原著論文・調査報告書等

- 磯谷達宏（1994）伊豆半島南部の小流域における常緑および夏緑広葉二次林の分布とその成立要因．生態環境研究，1(1)：15-31．
- 星野義延・野崎玲児・磯谷達宏・前迫ゆり・上條隆志・小林伯領（1995）御蔵島原生自然域の植生学的研究．「第4期自然保護協会プロ・ナトゥーラ・ファンド助成成果報告書」，73-77．日本自然保護協会，東京．
- 磯谷達宏（1995）城ヶ島におけるクマゼミの生息環境について．生態環境研究，2(1)：45-48．
- 磯谷達宏（1995）アマゾン熱帯林再生プロジェクトについて．生態環境研究，2(1)：51-52．
- 磯谷達宏（1995）暖温帯林の地理的構造と動態．生態環境研究，2(1)：55-58．
- 磯谷達宏（1995）環境学習の指導方法について．生態環境研究，2(1)：61．

磯谷達宏 (1995) 常緑広葉二次林と夏緑広葉二次林の分布とその成立要因 . ワイルド・ライフ・フォーラム , 1(3/4): 93-98 .

野崎玲児・星野義延・磯谷達宏 (1996) 伊豆諸島御蔵島で発見された分布東限のイスノキ林 . 植生学会誌 , 13(1): 11-23 .

星野義延・野崎玲児・磯谷達宏・前迫ゆり・上條隆志・小林伯領・渡部良樹 (1996) 御蔵島原生自然域の生態学的研究 . 「第 5 期自然保護協会プロ・ナトゥーラ・ファンド助成成果報告書」 , 17-27 . 日本自然保護協会 , 東京 .

Isogai, T. (1996) List of species planted in environmental protection forests in the Amazon delta region. Eco-Habitat, 3(1): 57-60.

磯谷達宏 (1997) 都市公園における生態学的な景観管理の方法について . 生態環境研究 , 4(1): 47-48 .

(2) 著書

磯谷達宏 (1995) ブラジル・アマゾンにおける環境保全林の事例 . 「環境保全林形成のための理論と実践」 (財団法人国際生態学センター) , 133-137 .

磯谷達宏 (1998) 生態系, 積算温度 . 「岩波理化学事典 第 5 版」 (長倉三郎ほか編) , p. 725, 732 . 岩波書店 .

(3) 普及的著作等

磯谷達宏 (1995) 熱帯林再生プロジェクト アマゾン出張報告 . JISE ニュースレター第 7 号 .

磯谷達宏 (1995) 生態学寸描 森を「知る」こと . JISE ニュースレター第 7 号 .

磯谷達宏 (1996) 生態学研修 (上級コース) 実施報告 . JISE ニュースレター第 11 号 .

磯谷達宏 (1996) アマゾンの都会にて . 環境と文明 , 4(8): 2 .

磯谷達宏 (1997) 生態学研修 (基礎コース) 実施報告 . JISE ニュースレター第 15 号 .

磯谷達宏 (1997) 生態学寸描 生態学的な景観管理のエッセンス . JISE ニュースレター第 16 号 .

磯谷達宏 (1997) 生物が進化していく場のデザインを楽しもう . 環境と文明 , 5(6): 11 .

4) 学会発表等

磯谷達宏・上條隆志・小林伯領 (1995) 御蔵島における森林植生の垂直分布とその構造 . 第 42 回日本生態学会大会 .

野崎玲児・星野義延・上條隆志・小林伯領・磯谷達宏 (1995) 伊豆御蔵島における森林植生の植物社会学的概観 . 第 42 回日本生態学会大会 .

磯谷達宏 (1995) 常緑広葉二次林と夏緑広葉二次林の分布とその成立要因 . 第 1 回野生生物保護学会 (自由集会) .

上條隆志・磯谷達宏 (1996) 御蔵島原生自然域の植生垂直分布 . 第 7 回千葉県立中央博物館自然誌シンポジウム .

吉田圭一郎・磯谷達宏 (1996) 函南原生林における常緑および落葉広葉樹林帯移行帯の植生構造と地形 . 日本地理学会 1996 年度秋季学術大会 .

- 磯谷達宏(1997)流域を基本単位とした中規模植生構造の把握法 - 伊豆半島の二次林を事例として - .
第44回日本生態学会大会 .
- 齊藤 均・磯谷達宏・藤原一繪(1998)動態単位を用いた函南原生林のブナ・アカガシ林の植生構造 .
第45回日本生態学会大会 .

白雪梅 (BAI, Xuemei) 研究員 博士 (工学) 1993.4 ~ 1998.3

(1) 原著論文・調査報告書等

- Bai, X. & R. Shibasaki (1995) A case study on global land use planning from the viewpoint of ecosystem services. *Eco-Habitat: JISE Research*, 2(1): 1-9.
- 白雪梅, E. Box, 柴崎亮介 (1994) NOAA NDVI データを用いた陸上現存順一次生産力の推定, *生態環境研究*, 1(1): 53-57.
- Box, E.O. & X. Bai (1993) A satellite-based world map of current terrestrial net primary productivity. *Seisan Kenkyu (Journal of the Institute of Industrial Sciences, Univ. of Tokyo)*, 45(9): 50-56.

(2) 著書

- 白雪梅 (1998) 炭素循環, 水循環. 「岩波 理化学辞典 第5版」(長倉三郎ほか編), p.818, 1352. 岩波書店.
- Shibasaki, R., Sh. Murai, Y. Honda & X. Bai (1996) Geo-information Integration for Global Resource Management for Sustainable Use of the Earth. In: *GIS in Asia (Tung Fung et al, ed.)*, pp.255-269.
- Shibasaki, R., Sh. Murai, T. Endo & X. Bai (1995) Global Planning for the Sustainable Use of the Earth Based on Land Suitability Analysis. In: *Toward Global Planning of Sustainable Use of the Earth (S. Murai, ed.)*, pp.301-314.

(3) 普及的著作等

- 白雪梅 1995. 中国科学院生態環境研究センターを訪ねて, *生態環境研究*, 2(1): 49-50.

(4) 学会発表等

- Bai, X., R. Shibasaki & S. Murai (1993) Assessment of global agricultural productivity using remote sensing data and its application to global land use planning. In: *Proceedings of Annual Conference of the Japan Society of Photogrammetry and Remote Sensing in 1993*, pp.71-76.
- Shibasaki, R., S. Murai, & X. Bai (1993) Global planning of sustainable use of the Earth. In: *Global environment monitoring from space. (Proceedings of SEIKEN Symposium, Vol.12.)*. Tokyo.

(1) 原著論文・調査報告書等

- 目黒伸一・朝倉祝治・宮脇 昭 (1993) 自生する数種の広葉樹の力学的特性に及ぼす環境条件の影響. 材料, 42: 317-323 .
- 目黒伸一・朝倉祝治・宮脇 昭 (1994) 自生する数種の広葉樹の強風に対する順応的形態変化. 材料, 43: 101-106 .
- 目黒伸一 (1994) 三浦半島南端に生育する樹木の分岐と枝年輪数. 生態環境研究, 1: 45-51 .
- Meguro, S. & Miyawaki, A. (1994) A study of the relationship between mechanical characteristics and the coastal vegetation among several broad-leaf trees in Miura Peninsula in Japan. *Vegetatio*. 112: 101-111.
- 目黒伸一・宮脇 昭 (1994) 三浦半島における海岸植生を構成する樹木の分岐形態と力学的特性の関係について. 環境科学, 7: 269-278 .
- Murakami, Y. & Meguro, S. (1996) Woody vegetation in Bintulu and Similajau National Park, Malaysia. *Eco-habitat*. 3: 1-17.
- Meguro, S. & Miyawaki, A. (1997) A study of initial growth behavior of planted Dipterocarpaceae trees for restoration of tropical rain forest in Borneo/Malaysia. *Tropical Ecology*. 38:237-245.
- Meguro, S. (1998) Growth behavior of some species through experimental reforestation on Borneo Island . *Eco-habitat*. 5: 53-58.
- Alias, M.A, Hamzah, M.Z., Fujiwara, K. & Meguro, S. (1998) Rehabilitation of tropical rainforests based on potential natural vegetation species for degraded area in Sarawak, Malaysia. *Tropics*. 7(3/4): 223-239.
- Miyawaki, A. & Meguro, S. (2000) Planting experiments for the restoration of tropical rain forest in Southeast Asia and a comparison with laurel forest at Tokyo Bay. *Proceedings IAVS Symposium*. 249-250. Sweden.
- 目黒伸一 (2000) 環境保全林における生育環境と樹木の生育挙動. 生態環境研究, 7: 1-8.
- Meguro, S. & Miyawaki, A. Species characters and the growth behavior at reforestation of tropical rain forest in Southeast Asia. *Contribuciones al conocimiento y evaluacion de la vegetacion*. (in press)
- Meguro, S. & Miyawaki, A. (2001) Growth behavior of tree species and the ecological characters of lowland tropical rain forests in Southeast Asia. *Hikobia*. 13: 363-372.
- 小西祐介・原田 洋・目黒伸一 (2001) 東扇島環境保全林の煤塵付着機能について. 生態環境研究, 8:17-25.
- Meguro, S. (2002) Macrodynamics growth behavior of reforestation in Southeast Asia at initial 10 years. *Eco-habitat*. 9. 129-134.
- 長尾忠泰・原田 洋・目黒伸一 (2003) 埋立地に造成された照葉樹環境保全林のリターフール量の年変動と季節変化. 森林立地, 45(1): 7-12 .

Meguro, S. & Miyawaki, A. (2003) Vegetation reconstruction and ecological reforestation based on vegetation science. 2003 Taipei International Workshop on Ecotechnology Proceedings. 4.1-4.8. Taiwan.

目黒伸一・長谷川直人・辻 毅一, (2003) 横浜市近郊における数種の樹木の力学的特性と種特性. 生態環境研究, 10(1): 77-83.

目黒伸一 (2004) 熱帯雨林回復の問題点とその克服方法について. 科学, 74: 317-321.

(2) 著書

目黒伸一 (1995) 海岸における環境保全林の生長. 「環境保全林形成のための理論と実践」(国際生態学センター, 分担執筆), 79-84.

目黒伸一 (1998) 制限因子. 「岩波 理化学辞典 第5版」(長倉三郎ほか編), p. 721. 岩波書店.

(3) 普及的著作等

目黒伸一 (1994) 熱帯林再生を願い. 神奈川新聞, 平成6年4月28日付 p.17.

目黒伸一 (1995) 生態学寸描 熱帯の樹木. JISE ニュースレター, 8: 8. (財)国際生態学センター.

目黒伸一 (1999) 国際生態学会(INTECOL)に参加して. JISE ニュースレター, 23: 2-3. (財)国際生態学センター.

目黒伸一(1999)マレーシア熱帯林再生に関する調査・実験研究プロジェクト. JISE ニュースレター, 26: 1-2. (財)国際生態学センター.

目黒伸一 (2003) 環境保全林における林分生長特性. 春夏秋冬, 29: 1-8.

(4) 学会発表等

目黒伸一 (1993) 樹木の強度と形態に関する研究. 第一報. 第40回日本生態学会大会講演要旨集, A305. 松江.

Meguro, S. (1993) The Relationship between the Mechanical Behavior and Form of Tree. Proceedings of XV International Botanical Congress, 2082. Yokohama.

目黒伸一 (1994) 樹木の強度と形態に関する研究. 第二報. 第41回日本生態学会大会講演要旨集, D312. 福岡.

目黒伸一 (1995) 樹木の強度と形態に関する研究. 第三報. 第42回日本生態学会大会講演要旨集, P514. 森岡

宮脇 昭・目黒伸一 (1995) 熱帯林再生 - マレーシア・ブラジルの例 -. 第42回日本生態学会大会講演要旨集, E307. 盛岡

目黒伸一 (1996) 海岸風衝植生を構成する樹木の出現挙動. 第43回日本生態学会大会講演要旨集, B121. 八王子

宮脇 昭・目黒伸一 (1997) 東南アジア熱帯林再生 その1 - 6年間の生育動態. 第44回日本生態学会大会講演要旨集, H201. 北海道.

目黒伸一・宮脇 昭 (1997) 東南アジア熱帯林再生 その2 - 立地条件による樹種特性. 第44回日本生態学会大会講演要旨集, H202. 北海道.

- Meguro, S. & A. Miyawaki (1997) Species characters and growth behavior at reforestation of tropical rain forest in South-east Asia. Proceedings of XVI Jornadas de Fitosociologia, D20. Almeria, Spain.
- Meguro, S. & A. Miyawaki (1998) Restoration and plantation characters of tropical rain forest in Southeast Asia. International Congress of Ecology, 8.6 P7. Florence, Italy.
- Miyawaki, A. & S. Meguro (1998) Restoration of tropical rain forests in Sarawak, Malaysia. Proceedings of 41st International Association of Vegetation Science, 3.1. Upsala, Sweden.
- 目黒伸一 (1999) マレーシア・ボルネオ島の環境保全林における数種の生長特性. 第46回日本生態学会大会講演要旨集, P1-119. 松本.
- Meguro, S. & A. Miyawaki (1999) Species character and growth behavior at experimental reforestation of tropical rain forest in Borneo Island, Malaysia. 42nd International Association of Vegetation Science, 2 B. Bilbao, Spain.
- 目黒伸一・宮脇 昭 (2000) ボルネオ低地熱帯林の立地と主な群落構成種の生長特性. 第47回日本生態学会大会講演要旨集, P1-027. 東広島.
- Meguro, S. & A. Miyawaki (2000) Growth character and the habitat of some species consisting of lowland tropical rain forests in Sarawak State, Borneo Island. Proceedings of 43rd International Association of Vegetation, P84. Nagano, Japan.
- 目黒伸一・宮脇 昭 (2001) ボルネオ低地熱帯林の立地と主な群落構成種の生長特性. 第48回日本生態学会大会講演要旨集, P3-026. 熊本.
- Seino, T., Aiba, S., Meguro, S. & Kitayama, K. (2001) Database of permanent ecological plots on Borneo. Workshop Linking vegetation processes with remotely sensed data on Borneo, Kyoto, Japan.
- 目黒伸一・長谷川直人・辻 毅一 (2002) 樹木の力学的物性値による樹木特性. 第49回日本生態学会大会講演要旨集, N213. 仙台.
- 阿部聖哉・目黒伸一・原田 洋 (2002) 環境保全林と残存孤立林の越冬期鳥類相の比較. 第49回日本生態学会大会講演要旨集, M218. 仙台.
- Meguro, S. & A. Miyawaki (2002) Characteristics of lowland tropical rainforests in Southeast Asia on phytosociology and growth behavior of tree species. Proceedings of International Congress of Ecology, Contributed paper session #19. Seoul, Korea.
- Meguro, S. (2002) Significance of ecological study on rehabilitation of vegetation. Proceedings of International Congress of Ecology, Workshop #2. Seoul, Korea.
- 目黒伸一 (2003) アマゾン熱帯雨林における植栽された数種の樹種生態について. 第50回日本生態学会大会講演要旨集, PA1-064. つくば.
- 目黒伸一 (2003) 生態学に基づいた森林復元. 国立民俗学博物館モンゴル環境フォーラム. 大阪.
- Miyawaki, A. & S. Meguro (2003) Meaning of phytosociological species combination at lowland tropical rainforests in Malaysia. Proceedings of 46th International Association of Vegetation Science, A8. Naples, Italy.
- Meguro, S. & A. Miyawaki (2003) Some tree species characters in Amazon comparing with tropical

rainforest in SE-Asia. Proceedings of 46th International Association of Vegetation Science, A8. Naples, Italy.

Meguro, S. & A. Miyawaki (2003) Vegetation reconstruction and ecological reforestation based on vegetation science. Proceedings of 2003 Taipei International Workshop on Ecotechnology, 1.4. Taipei, Taiwan.

目黒伸一・牧口直子・上條隆志・中村 徹 (2004) 力学的特性と樹木形態解析による日本の高木性樹種の生態特性. 第51回日本生態学会要旨集, P2-060. 釧路.

Miyawaki A., & S. Meguro (2004) Vegetation of lowland tropical forest and ecological characteristics of the component trees at estuary region in Amazon. Proceedings of 47th International Association of Vegetation Science. Honolulu, USA.

Meguro, S., N. Makiguchi, T. Kamijo & T. Nakamura (2004) Relationship between mechanical characteristics and the ecology among Fagaceae tree species in Japan. Proceedings of 47th International Association of Vegetation Science. Honolulu, USA.

Meguro, S. (2004) Restoration of tropical rainforests and its significance. Proceedings of 1st East Asian Federation of Ecological Societies International Congress, #7. Mokpo, Korea.

Ozaki, M. & S. Meguro (2004) Experimental studies of the native forest restoration in evergreen forest region of Japan. Proceedings of 1st East Asian Federation of Ecological Societies International Congress, #7. Mokpo, Korea.

(5) 主な社会的活動

- ・横浜国立大学非常勤講師 (2003年度～)
- ・学習院大学大学非常勤講師 (2003年度～)
- ・横浜国立大学客員助教授 (2004年度～)

阿部聖哉 (ABE, Seiya) 研究員 博士 (学術) 1998.4 ~ 2001.3

(1) 原著論文・調査報告書等

阿部聖哉・奥田重俊 (1998) 本州中部の山地河畔におけるヤシャブシ群落の分布と種組成. 植生学会誌, 15: 95-106.

阿部聖哉 (1998) 磐梯山北東斜面におけるアカマツ, ヤシャブシ, コゴメヤナギ林の種組成と地形分布. 生態環境研究, 5: 1-6.

阿部聖哉 (1999) 丹沢山地における溪畔林の発達に伴う種組成と生活型の変化. 日本生態学会誌, 49: 237-246.

阿部聖哉 (2000) 都市近郊における孤立林の植生タイプと越冬期鳥類相との関係. 生態環境研究, 7: 1-6.

阿部聖哉 (2001) 荒川流域におけるオギ草原の種組成と生活型. 奥田重俊先生退官記念論文集「沖積

地植生の研究」, pp. 64-74.

阿部聖哉 (2001) 調査地の概況。「よこすかの植生-みどりの調査と活用のための提案-」(国際生態学センター編), pp. 6-8; 調査結果。(同), pp. 31-32, 40-44, 78-79, 80-84; 植生図(2万分の1)。(同), 付録。横須賀市。

阿部聖哉 (2002) 調査結果。「加賀市の植生 - 緑を基礎とした環境創造・整備のための植生生態学的提言-」(国際生態学センター編), pp. 33-35, 43-45, 48-50, 79-83. 加賀市。

(2) 普及的著作等

阿部聖哉 (1998) 湿地性鳥類の分布と土地利用の変化 - 絶滅危惧種ヨシゴイ, ヒクイナ, タマシギを例にして - . 春夏秋冬, 20: 1-6.

阿部聖哉 (1999) 都市化する農村地域における樹林地の越冬期鳥類群集. 春夏秋冬, 21: 1-11.

阿部聖哉 (1999) 谷戸の生態公園と周辺住宅地における春期の鳥類群集. 春夏秋冬, 22: 1-11.

阿部聖哉 (1999) 第9回国際景観生態学会日本支部大会エクスカージョンに参加して. 国際景観生態学会日本支部会報, 4: 126.

阿部聖哉 (2000) 首都圏近郊の湿地植生とその保全に関する課題. 春夏秋冬, 23: 27-32.

阿部聖哉 (2000) 希少植物タマノカンアオイの分布と植生, 土地利用. 春夏秋冬, 24: 17-21.

阿部聖哉・目黒伸一・原田 洋 (2001) 東扇島環境保全林における越冬期の鳥類相. 春夏秋冬, 26.

阿部聖哉 (2001) ブラジル・ベレン周辺の熱帯雨林とその再生実験. 日本熱帯生態学会ニューズレター, 42: 1-4.

(3) 学会発表等

阿部聖哉 (1999) 縮尺の異なる植生図を用いたオオヨシキリの分布と生息密度の推定. 第46回日本生態学会大会, 松本.

宮脇 昭・阿部聖哉 (1999) アマゾン (Belem) 低地熱帯林再生実験についての一考察. 第46回日本生態学会大会, 松本.

阿部聖哉・宮脇 昭 (2000) アマゾン低地熱帯林再生試験地における植栽6年後の林分構造と樹木の成長. 第111回日本林学会大会学術講演集, p.83.

阿部聖哉 (2000) 東京都内の孤立樹林地における鳥類相とその変化. 第47回日本生態学会講演要旨集, p.283. 東広島.

Abe, S. & Y. Hatase (2000) Community differentiation of two *Alnus* species dominated scrub vegetation by snowfall conditions in central Japan. International Association for Vegetation Science 43rd Annual Symposium Abstracts. p.102. Nagano.

阿部聖哉 (2001) 都市化による谷戸生態系の変化. 第48回日本生態学会講演要旨集, p. 233. 熊本.

阿部聖哉・目黒伸一・原田 洋 (2002) 環境保全林と残存孤立林の越冬期鳥類群集の比較. 第49回日本生態学会講演要旨集, p. 233. 仙台.

宮脇 昭・阿部聖哉 (2002) アマゾン低地熱帯林再生プロジェクト 植栽樹種の組み合わせの異なる植分の10年目の構造比較. 第49回日本生態学会講演要旨集, p. 117. 仙台.

Miyawaki A. & S.Abe (2002) A reforestation project of lowland tropical forests in Brazilian

Amazon Growth behavior in ten years. 45th Symposium of the International Association for Vegetation Science.

林 寿則 (HAYASHI, Hisanori) 研究員 工学修士 2002.6~

(1) 原著論文・調査報告書等

矢ヶ崎朋樹・村上雄秀・林 寿則 (2003) 断片緑地の種組成調査に基づく市街地の潜在自然植生の推定. 生態環境研究, 10(1): 37-55.

林 寿則・村上雄秀・矢ヶ崎朋樹 (2003) 遷移度を用いた地域植生の序列化の試み 福井県武生市西部の植生をケース・スタディーとして-. 生態環境研究, 10(1): 57-76.

(2) 学会発表等

村上雄秀・林 寿則・矢ヶ崎朋樹 (2003) 福井県武生市西部の植生 - 遷移度を用いた地域植生の序列化の試み -. 植生学会第8回大会講演要旨集, A11. 熊谷.

村上雄秀・林 寿則・矢ヶ崎朋樹 (2004) 春植物群落の種組成的類型化について. 第51回日本生態学会大会講演要旨集, p. 264. 釧路.

(3) 主な調査活動

- ・白山地域の植生調査 (2003年度~), 文部省科研費.
- ・丹沢大山総合調査 (2004年度~), 神奈川県.
- ・自然公園等整備事業・植生調査 (2004年度~), 福井県.

矢ヶ崎朋樹 (YAGASAKI, Tomoki) 研究員 修士 (環境学) 1998.5~

(1) 原著論文・調査報告書等

矢ヶ崎朋樹 (1998) スズタケ個体群の退行・再生状況と形態的特徴について. 生態環境研究, 5(1): 89-93.

矢ヶ崎朋樹・星 直斗・原田修平 (1999) 植生保護柵の設置が林床植生の種組成に及ぼす初期の効果について - 丹沢山ブナ林域の例. 生態環境研究, 6(1): 113-118.

矢ヶ崎朋樹・佐々木 寧 (2000) 河川環境調査に関わる植生情報の問題点とその検討 - 「河川水辺の国勢調査」植生調査データについて -. 生態環境研究, 7(1): 89-103.

矢ヶ崎朋樹 (2001) 調査結果. 「よこすかの植生 - みどりの調査と活用のための提案 -」 (国際生態学センター編), pp. 35, 49-50, 67-77. 植生図 (2万分の1). (同), 付録. 横須賀市.

鈴木伸一・矢ヶ崎朋樹 (2001) 石川県加賀海岸における海岸断崖地の湿生草原群落. 生態環境研究, 8(1): 75-80.

村上雄秀・矢ヶ崎朋樹 (2001) 横浜市の河辺植生 (第4報) - 1999年度中小河川調査 -. 「環境保全資

- 料 No.190 横浜の川と海の生物 第9報・河川編」, pp. 183-210. 横浜市環境保全局.
- 矢ヶ崎朋樹 (2002) 調査地の概況. 「加賀市の植生 - 緑を基礎とした環境創造・整備のための植生生態学的提言」(国際生態学センター編), pp. 3-7; 調査結果. (同), pp. 46-47, 51-57, 70-74, 76-79, 97-99. 加賀市現存植生図. (同), 付録. 加賀市.
- 矢ヶ崎朋樹・鈴木邦雄 (2002) 生態環境資源のメッシュ法解析とその統合的沿岸域管理への有効性 - 生態保全価値空間の抽出の事例. 生態環境研究, 9(1): 85-109.
- 矢ヶ崎朋樹・村上雄秀・林 寿則 (2003) 断片緑地の種組成調査に基づく市街地の潜在自然植生の推定. 生態環境研究, 10(1): 37-55.
- 林 寿則・村上雄秀・矢ヶ崎朋樹 (2003) 遷移度を用いた地域植生の序列化の試み - 福井県武生市西部の植生をケース・スタディーとして -. 生態環境研究, 10(1): 57-76.
- 村上雄秀・矢ヶ崎朋樹 (2004) 横浜市の河川源流域における水辺植生() - 2002年度鶴見川水系調査報告 -. 「横浜の川と海の生物 第10報・河川編」, pp. 127-150. 横浜市環境保全局.

(2) 著書

- 埼玉県環境生活部自然保護課編 (1998) さいたまレッドデータブック - 埼玉県希少野生生物調査報告書植物編 (分担執筆). 埼玉県.
- 城川四郎・矢ヶ崎朋樹 (2001) タケ科. 「神奈川県植物誌 2001」(神奈川県植物誌調査会編), pp. 359-379. 神奈川県立生命の星・地球博物館.

(3) 普及的著作等

- 矢ヶ崎朋樹 (2000) 「今、丹沢の林床植生が直面する問題 - 未完の『丹沢ものがたり』に続いて」. JISE ニュースレター, 29: 1-3. (財)国際生態学センター.
- 矢ヶ崎朋樹 (2002) 「地域生態系の構造と動態およびその評価に関する研究」. JISE ニュースレター, 37: 1-4. (財)国際生態学センター.

(4) 学会発表等

- 矢ヶ崎朋樹 (1999) 比企郡滑川町における土地改変の履歴と植物群落の分布・種組成について. 植生学会第4回大会講演要旨集, p. 15. 旭川.
- 矢ヶ崎朋樹・佐々木 寧 (2000) 「河川水辺の国勢調査」植生データの活用と課題. 植生学会第5回大会講演要旨集, p. 38. 高知.
- 太田和夫・厚沢正治・長谷川 寛・清水保典・長沢義則・高橋絹世・若山正隆・谷山久子・松島百合子・内藤 茂・矢ヶ崎朋樹・若山美智子・古橋光弘 (2000) ボランティア参加による地域の自然の調査とその成果 - 荒川河川敷のハンノキ林 -. 日本環境教育学会第11回大会, 長野.
- 矢ヶ崎朋樹 (2001) ニホンジカ過密生息域におけるブナ林林床の種組成について. 第48回日本生態学会大会講演要旨集, p. 289. 熊本.
- 村上雄秀・矢ヶ崎朋樹 (2002) 孤立木調査に基づく市街地の潜在自然植生の推定の試み. 植生学会第7回大会講演要旨集, p. 6. つくば.
- 矢ヶ崎朋樹・鈴木邦雄 (2003) 生態資源のメッシュ法解析に基づく空間類型の試み. 第50回日本生

態学会大会講演要旨集, p. 224. つくば.

村上雄秀・矢ヶ崎朋樹・鈴木伸一・阿部聖哉 (2003) 都市河川における河辺植生の回復に関する研究
- 福井市周辺の河辺植生類型 - . 植生学会第8回大会講演要旨集, p. 39. 熊谷.

矢ヶ崎朋樹・村上雄秀・安藤彰則・坂田正宏 (2003) 都市河川における河辺植生の回復に関する研究
- 自然再生実験地での2ヶ年の植生動態 - . 植生学会第8回大会講演要旨集, p. 40. 熊谷.

村上雄秀・林 寿則・矢ヶ崎朋樹 (2003) 福井県武生市西部の植生 - 遷移度を用いた地域植生の序列化の試み - . 植生学会第8回大会講演要旨集, p. 21. 熊谷.

矢ヶ崎朋樹・村上雄秀・武井幸久・平泉直美・向川泰弘・鈴木邦雄 (2004) 自然資源ベースマップを用いた保全・再生地域の抽出と評価. 第51回日本生態学会大会講演要旨集, p. 304. 釧路.

村上雄秀・林 寿則・矢ヶ崎朋樹 (2004) 春植物群落の種組成的類型化について. 第51回日本生態学会大会講演要旨集, p. 264. 釧路.

矢ヶ崎朋樹・村上雄秀・向川泰弘 (2004) 福井県の里地河川における植生回復のための基礎的研究
植物群落の分布に基づく河辺植生景観の類型とその評価. 植生学会第9回大会講演要旨集, p. 8.
宮崎.

(5) 主な社会的活動

- ・財団法人神奈川県ふれあい教育振興協会・ふれあい指導者研修講師 (2000年度)
- ・河和田川の環境を考える会ワークショップ講師 (2003年度)

(6) 主な調査活動

- ・森林資源モニタリング調査 (植生調査) (1999年度~), 神奈川県.
- ・石川県加賀市植生調査 (1999~2001年度), 加賀市.
- ・高知県大川村大規模崩壊地植生調査 (1999~2001年度), 国土交通省.
- ・河川に於ける生物環境の評価手法の確立とデータベース化 (2000年度), 河川環境管理財団.
- ・街なみ環境整備事業 / 現存植生・潜在自然植生調査 (2002年度), 大野市.
- ・都市河川 (狐川) 自然再生実験地植生調査 (2002~2003年度), 福井県.
- ・地域生態系の構造と動態およびその評価に関する研究 (2002年度~), 国際生態学センター.
- ・里地河川環境保全モデル事業・植生調査 (2003年度~), 福井県.
- ・ユネスコ MAB 白山生物圏保存地域の植生調査 (2003年度~), 文部省科研費.
- ・福井県潜在自然植生調査 (2004年度~), 福井県.
- ・丹沢大山総合調査 (2004年度~), 神奈川県.

財団法人 国際生態学センター業績目録 第1号
(平成5年10月～16年10月)

2005年3月31日 発行

編集発行 財団法人 国際生態学センター
〒231-0023 横浜市中区山下町32
横浜合同庁舎6階
TEL (045)651-7690
FAX (045)651-7692
<http://www.jise.or.jp/>
印刷 小林紙工株式会社
